

2015年度 総合薬学研究・総合薬学演習卒業論文発表会開催

教務課



ディスカッションの風景



ポスター発表会の様子

2015年6月23日（火）・24日（水）の2日間にわたり、6年次生の卒業論文発表会を臨床薬学教育研究センターにて開催しました。グローバル人材育成の一環として、6年次生は一昨年より、英語でのポスター作成・発表・質疑応答にチャレンジしています。

発表会には、海外学術交流協定を締結している瀋陽薬科大学（中国）、アレキサンドリア大学（エジプト）、マヒドール大学（タイ）および国立台湾大学（台湾）から20名の先生等をお招きしました。招待者と本学の学生との間での活発な質疑応答が交わされ、本学学生のコンピテンスの高さが示された卒

CONTENTS

■ 特集

- 海外短期留学奨学生制度が始まりました
—MCPHS大学に留学して— 6

■ コラム

- 卒業生からのメッセージ 5

■ イベント

- 2015年度総合薬学研究・総合薬学演習卒業論文発表会開催 .. 1
日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加して 17
「医薬品開発のためのサマープログラム」が開催されました 18
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
合同成果発表会 実施報告 20
理科実験講座「身近な夏の不思議体験2015イン山科」 21
第9回自治会執行部主催七夕企画 21
2015年6月、8月にオープンキャンパスを開催しました 22
大学院研究倫理教育SGDの開催 25
「日本薬学生連盟 年会」を本学で開催！ 27

■ 報告

- 2016年度、2015年度大学院入学選考結果 2
第7回学生満足度調査集計結果 3
第100回薬剤師国家試験の結果について 14
2015年度京都薬科大学給付型奨学生決定・表彰 16
2015年度京都薬科大学初の遠隔地出身学生給付型奨学生決定 17
大学院トピックス 24
受賞 31
京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 32

■ お知らせ

- Library News 26
クラブだより 29
第13回文化講演会のお知らせ 29
生涯教育センターからのお知らせ 30
京薬会だより 31
人事異動 32

業論文発表会となりました。また、大学院生、外国人留学生も多数参加し、後輩達の発表を盛り上げてくれました。

ポスター発表で活発な質疑応答を行った学生約60名に、発表会終了後に開催する“The Get-Together Party”への招待状が海外招待者から授与され、パーティーで親交を深めることとなりました。



“The Get-Together Party”の様子

＜スケジュール＞

	日時	系	分野
6月23日	第1部 13：30～14：10 14：10～14：50	医療薬科学	薬剤学、薬物動態学、臨床薬学
		基礎科学	健康科学、物理学、薬学英語
		薬学教育	臨床薬学教育研究センター、情報処理教育研究センター
		附属施設	薬用植物園
	第2部 15：10～15：50 15：50～16：30	創薬科学	薬化学、薬品製造学、薬品化学、生薬学
	第3部 16：50～17：30 17：30～18：10	分析薬科学	薬品分析学、代謝分析学、薬品物理化学
6月24日	第1部 13：30～14：10 14：10～14：50	生命薬科学	衛生化学、公衆衛生学、微生物・感染制御学 細胞生物学、生化学、病態生理学
	第2部 15：10～15：50 15：50～16：30	病態薬科学	病態生化学、薬物治療学、臨床薬理学 薬理学、臨床腫瘍学

※全て40分交代とする

2016年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）、
2015年度大学院薬学専攻博士課程（秋季入学）
及び薬科学専攻博士後期課程（秋季入学）の入学選考結果

Report

入試課

2016年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）、2015年度大学院薬学専攻博士課程（秋季入学）、2015年度大学院薬科学専攻博士後期課程（秋季入学）の入学選考を8月21日（金）に実施し、8月28日（金）に合格発表を行いました。

2016年度薬学専攻博士課程（夏季募集）の志願者は7名、合格者は6名でした。

2015年度薬学専攻博士課程（秋季入学）の志願者は2名、合格者は2名でした。薬科学専攻博士後期課程（秋季入学）の志願者は2名、合格者は2名でした。

○2016年度薬学専攻博士課程（夏季募集）の合格者数等

志願者数	7名
受験者数	6名
合格者数	6名

○2015年度薬学専攻博士課程（秋季入学）の合格者数等

志願者数	2名
受験者数	2名
合格者数	2名

○2015年度薬科学専攻博士後期課程（秋季入学）の合格者数等

志願者数	2名
受験者数	2名
合格者数	2名

第7回学生満足度調査 集計結果

Report

学生満足度調査プロジェクトチーム

本学では、2009年度から、2～6年次生を対象とした「学生満足度調査」を実施しています。2015年度の調査では1,127名（回収率59.9%）の学生の皆さんに協力をいただきました。今回は、全学年「履修ガイダンス」において、アンケートを実施させていただきましたので、このような高い回収率となりました。ありがとうございました。

学生の皆さんから寄せられた声は、本学の全職員で共有し、今後の教育・研究等の改善に役立てていきたいと考えています。

なお、アンケート結果から得られた改善が必要な項目につきましては、本学の第2期中期計画に盛り込み、全学的な取組として改善に努めます。改善結果については、追って報告いたします。

＜学生満足度調査の実施概要＞

- (1) 実施対象
学部2～6年次生
- (2) 回答方式
無記名方式
- (3) アンケート実施日程
2015年4月6日（月）～4月9日（木）の各学年「履修ガイダンス」時に実施
- (4) アンケート回収方法
回答後、係員により即時回収。
即時回収が不可の場合は、4月30日（金）までに、学生課設置の回収箱へ投函
- (5) 回収率
59.9%（前年度：20.9%、+39ポイント）

＜学生満足度調査結果＞

(1) はじめに

①性別

No	回 答	2015年度		2014年度		2013年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性	322	28.6%	81	20.6%	130	22.9%
2	女性	794	70.5%	310	78.7%	431	75.9%
	無回答	11	1.0%	3	0.8%	7	1.2%
	計	1127	100.1%	394	100.0%	568	100.0%

②学年

No	回 答	2015年度		2014年度		2013年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	2年次	208	18.5%	102	25.9%	172	30.3%
2	3年次	218	19.3%	84	21.3%	116	20.4%
3	4年次	125	11.1%	84	21.3%	119	21.0%
4	5年次	322	28.6%	79	20.1%	83	14.6%
5	6年次	245	21.7%	42	10.7%	69	12.1%
	無回答	9	0.8%	3	0.8%	9	1.6%
	計	1127	100.0%	394	100.0%	568	100.0%

(2) 京都薬科大学の魅力（※複数回答可）

No	回 答	2015年度		2014年度		2013年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	伝統があり、多くの卒業生を輩出している	721	28.4%	253	27.4%	350	26.9%
2	学力水準が高く、知名度が高い	442	17.4%	143	15.5%	154	11.9%
3	高い研究力	117	4.6%	36	3.9%	76	5.9%
4	最先端の薬学教育を受けることができる	65	2.6%	33	3.6%	41	3.2%
5	施設や設備が充実している	234	9.2%	106	11.5%	140	10.8%
6	高い就職率	359	14.1%	143	15.5%	190	14.6%
7	立地条件が良い	308	12.1%	103	11.2%	177	13.6%
8	京都の街	246	9.7%	87	9.4%	142	10.9%
9	その他（下記自由記述欄に記入して下さい）	16	0.6%	7	0.8%	10	0.8%
	無回答	30	1.2%	11	1.2%	19	1.5%
	計	2538	100.0%	922	100.0%	1299	100.0%

(3) 京都薬科大学の教育・研究 (Q5-11～Q5-13は4年次生以上への質問項目)

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2015年度 平均点	2014年度 平均点	2013年度 平均点
Q5-1	シラバスには必要な情報が十分盛り込まれている	177	870	49	6	25	1127	3.1	3.2	3.1
Q5-2	教養科目(人と文化)は充実している	115	804	144	38	26	1127	2.9	2.8	2.7
Q5-3	基礎演習の内容は充実している	148	856	85	12	26	1127	3.0	3.1	2.9
Q5-4	早期体験学習のプログラムは充実している	183	778	113	23	30	1127	3.0	3.1	3.0
Q5-5	英語科目は充実している	100	624	290	87	26	1127	2.7	-	-
Q5-6	選択外国語科目は充実している	129	677	232	50	39	1127	2.8	-	-
Q5-7	授業以外の学習支援体制(オフィスアワー・学びコンシェルジュ)は充実している	118	790	153	25	41	1127	2.9	-	-
Q5-8	専門科目は充実している	286	774	37	6	24	1127	3.2	-	-
Q5-9	専門科目実習は充実している	283	766	45	8	25	1127	3.2	-	-
Q5-10	海外留学プログラムに参加してみたい	238	539	155	162	33	1127	2.8	-	-
Q5-11	総合薬学研究・演習を通して専門性を深められていると感じる	221	372	50	15	34	692	3.2	3.2	3.2
Q5-12	総合薬学研究・演習の定員は適切である	125	370	118	44	35	692	2.9	2.9	2.9
Q5-13	病院・薬局実習は充実している	144	387	30	17	114	692	3.1	-	-

(4) 京都薬科大学の学生サポート

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2015年度 平均点	2014年度 平均点	2013年度 平均点
Q7-1	学生に対する各窓口での対応は親切・丁寧に行われている	326	669	91	16	25	1127	3.2	3.2	3.3
Q7-2	クラブ活動を行うのに十分な設備が整っている	124	624	246	88	45	1127	2.7	2.7	2.8
Q7-3	奨学金制度は充実している	107	733	185	43	59	1127	2.8	2.9	2.8
Q7-4	困ったとき、悩んだときは学生相談員に相談したい	89	474	380	156	28	1127	2.5	2.6	2.4
Q7-5	困ったとき、悩んだときは精神科医・臨床心理士に相談したい	67	403	436	191	30	1127	2.3	2.4	2.3
Q7-6	授業に関すること、呼出し等、必要な情報の提供を問題なく受けている	148	768	148	38	25	1127	2.9	2.9	2.8

(5) 京都薬科大学の施設・設備

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2015年度 平均点	2014年度 平均点	2013年度 平均点
Q9-1-A	施設・設備が充実している 講義室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	332	688	53	8	46	1127	3.2	3.2	3.2
Q9-1-B	施設・設備が充実している 実習室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	331	702	39	7	48	1127	3.3	3.2	3.2
Q9-1-C	施設・設備が充実している 自習室	207	619	202	48	51	1127	2.9	3.0	2.8
Q9-1-D	施設・設備が充実している 駐輪場	194	721	98	41	73	1127	3.0	3.0	3.0
Q9-1-E	施設・設備が充実している ロッカー室	185	677	177	35	53	1127	2.9	2.9	2.8
Q9-1-F	施設・設備が充実している 掲示板	204	745	116	12	50	1127	3.1	3.0	2.9
Q9-1-G	施設・設備が充実している 情報設備(パソコン、インターネット)	249	720	92	13	53	1127	3.1	3.1	3.1
Q9-2	研究室では安心して実験・実習に取り組める環境が整備されている	242	621	89	22	153	1127	3.1	3.1	3.1
Q9-3-1-A	食堂施設が充実している(実学館—メニュー)	170	542	282	79	54	1127	2.7	2.9	2.8
Q9-3-1-B	食堂施設が充実している(実学館—価格)	176	564	273	63	51	1127	2.8	2.8	2.8
Q9-3-1-C	食堂施設が充実している(実学館—利用環境)	92	412	417	155	51	1127	2.4	2.4	2.3
Q9-3-2-A	食堂施設が充実している(躬行館—メニュー)	97	501	353	117	59	1127	2.5	2.6	2.6
Q9-3-2-B	食堂施設が充実している(躬行館—価格)	120	569	300	82	56	1127	2.7	2.7	2.6
Q9-3-2-C	食堂施設が充実している(躬行館—利用環境)	81	461	383	145	57	1127	2.4	2.5	2.4
Q9-4	図書館施設が充実している(蔵書数、カウンターサービスも含む)	246	675	124	20	62	1127	3.1	3.1	3.0
Q9-5	文具・書籍売場が充実している(品揃え、価格含む)	203	670	167	32	55	1127	3.0	3.0	2.9
Q9-6	憩いのスペースが充実している	137	559	308	66	57	1127	2.7	2.8	2.7
Q9-7-A	安全・衛生管理が行き届いている セキュリティ	281	688	90	14	54	1127	3.2	3.1	3.1
Q9-7-B	安全・衛生管理が行き届いている 構内の交通安全	311	709	45	7	55	1127	3.2	3.2	3.2
Q9-7-C	安全・衛生管理が行き届いている 清掃	437	596	32	6	56	1127	3.4	3.4	3.4

(6) 京都薬科大学の進路支援 (Q11-7-A～Q11-8は6年次生への質問項目)

No	質問内容	4.とても当てはまる	3.まあ当てはまる	2.あまり当てはまらない	1.当てはまらない	無回答	計	2015年度 平均点	2014年度 平均点	2013年度 平均点
Q11-1	進路支援課へ進路に関する相談や質問をしたことがある	101	242	238	460	86	1127	2.0	1.9	1.8
Q11-2	進路支援課隣接の資料室を利用したことがある	78	254	226	480	89	1127	1.9	1.8	1.8
Q11-3	進路ガイダンス・学外講師によるセミナーの内容はわかりやすい	93	642	232	59	101	1127	2.7	-	-
Q11-4	進路ガイダンスの実施時期・回数は適当である	93	692	200	42	100	1127	2.8	2.8	2.7
Q11-5	学内公募型インターンシップ制度が充実している	72	618	251	46	140	1127	2.7	2.7	2.5
Q11-6	学内合同企業説明会(企業・病院・薬局・公務員)が充実している	130	680	158	30	129	1127	2.9	2.9	2.8
Q11-7	公務員試験対策(学外講師によるセミナー・対策講座)が充実している	84	635	212	39	157	1127	2.8	-	-
Q11-8-A	進路支援サービスが充実している(エントリーシート・履歴書等の添削)	48	119	21	5	52	245	3.1	3.5	3.4
Q11-8-B	進路支援サービスが充実している(模擬面接・グループディスカッション対策)	32	132	25	5	51	245	3.0	3.5	3.2
Q11-8-C	進路支援サービスが充実している(求人情報の提供)	31	125	40	4	45	245	2.9	3.3	3.2
Q11-8-D	進路支援サービスが充実している(企業・病院・薬局等の情報提供)	33	130	33	5	44	245	3.0	3.3	3.1
Q11-8-E	進路支援サービスが充実している(その他相談に対する対応)	40	136	18	4	47	245	3.1	3.4	3.3
Q11-9-A	進路希望とアライン(5年次)について(進路について考える有意義な機会となった)	43	97	33	4	68	245	3.0	-	-
Q11-9-B	進路希望とアライン(5年次)について(アライン後、進路支援課を利用しやすくなった)	42	95	31	8	69	245	3.0	-	-

(7) 総合評価

No	回答	2015年度		2014年度		2013年度	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1	1. まったく満足していない	5	0.4%	2	0.5%	4	0.7%
2	2	12	1.1%	7	1.8%	3	0.5%
3	3	27	2.4%	11	2.8%	22	3.9%
4	4	36	3.2%	10	2.5%	18	3.2%
5	5. どちらとも言えない	134	11.9%	29	7.4%	58	10.2%
6	6	185	16.4%	56	14.2%	90	15.8%
7	7	314	27.9%	107	27.2%	153	26.9%
8	8	316	28.0%	132	33.5%	150	26.4%
9	9	66	5.9%	27	6.9%	35	6.2%
10	10. 非常に満足している	15	1.3%	8	2.0%	5	0.9%
	無回答	17	1.5%	5	1.3%	30	5.3%
	計	1127	100.0%	394	100.0%	568	100.0%
	平均点	6.8		6.9		6.7	

平均点：6.8

※2014年度調査時の平均点は6.9点
2013年度調査時の平均点は6.7点

卒業生からのメッセージ

薬局経営を始めるまで

まさよし

山本 雅祥



1996年 学部卒業
(薬品分析学教室)
1998年 大学院修士課程修了
(薬品分析学教室)
1998年～2001年
共和薬品工業(株) 開発部
2001年～2008年
(株)サンメディック(調剤薬局)
2009年～ よつば薬局(株) 設立

何がきっかけで人生の転機が訪れるのか分かりません。

私は高校生の時、工学部に入りロボットを作りたいと思っていましたが、電気関係が苦手なこともあり進路に迷っていました。そんな時期にたまたま学校のOBから「現代医療について」の話を聞く機会があり、私もそこに携わりたくなり進路先を決意し、薬の研究開発をするため京都薬科大学に入りました。大学生活は研究職に就くためのステップと考え、大学院まで進学し、無事に希望職へ就くことができました。ところが実際に研究に携わり、自分が商品を出す為の研究だけに迫られている事に違和感を持ち始め、これで良かったのかと悩んでいました。そんな頃、道を歩いている時に調剤薬局で「薬

剤師募集」の張り紙がふと目に留まり、直接患者様と向き合って仕事がしてみたいと思い転職することにしました。薬剤師の国家資格を取得し、それまで積極的に利用する機会がなかったのですが、実際に薬剤師として働き始め、いつの間にか薬剤師が自分の天職と思えるようになっていました。

薬局で働きながら色々な技術、そして応用力を習得することができました。薬局薬剤師としての仕事は薬の専門家であることだけでなく、患者様の抱えている問題を察知し、それに対しアドバイスをするというカウンセリング力も必要となってきます。店舗を任されるようになるとマネジメント力、及び経営上欠かせない簿記の知識も身につきました。また、地域の薬剤師会へ積極的な参加を心がけて他の薬局薬剤師や医療関係者との関わりもたくさん持てるようになりました。広い人間関係の中で様々な視点の話を聞くことができ、薬以外の知識も得ることができました。

7年前に薬剤師会の知人からの誘いで調剤薬局を経営することとなり、現在に至ります。自分の薬局で患者様が安心して薬を受け取り、薬局を出ていく姿を見ることが何よりも私のやりがいとなっています。

たくさんの希望と可能性を持った後輩たちが社会に出てくるのを楽しみにしています。

海外短期留学奨学生制度が始まりました

－ MCPHS大学に留学して －

ちょうど1年前の本誌179号（2014年10月）では、特集記事のなかで「国際交流センター」「国際交流推進室」をご紹介しましたが、覚えておいででしょうか。そこでは、2014年7月1日付で策定された「京都薬科大学国際化ビジョン」の9項目の1つとして、「学部学生の海外派遣推進」が挙げられていました。具体的には①ドイツのフライブルク大学が開催する「日本人のためのサマープログラム」の「海外語学研修」への学生派遣。②米国MCPHS大学の本学独自研修プログラムへの学生派遣を目指す、の2点となります。①のドイツについては、すでに実施されていたものを位置づけなおしたのですが、②はまったく新たな試みです。そして、本年8月前半、2年次生と3年次生からなる最初の留学生11名がMCPHS大学へ送り出されました。

上記との関連であらたに制定された「京都薬科大学海外短期留学奨学金規則」によれば、派遣学生は2年次生と3年次生で、「学内学業成績及び語学能力を考慮して国際交流推進委員会の審査を経て学長が決定」し、また奨学金は1人あたり受講料と滞在費に相当する額（20万円が限度）、往復渡航費や傷害保険などは自己負担とされています。

本号では、本学初のアメ리카への短期留学生派遣プログラムを特集しました。引率職員として渡米した藤室雅弘教授と佐々木雄太事務員、そして11人の留学生全員から報告記事をいただくことができました。みなさんの記事を読ませていただくことにより、今回の試みがたいへん有意義であったことが窺えます。引率された4人の職員の方々のご尽力、留学生のみなさんのチャレンジ精神に敬意を表するとともに、ご寄稿へのお礼を申し述べます。来年度以降も、積極的な応募者を期待するとともに、広く本学学生のみなさんが英語力の向上に努められるよう希望しております。

KPU^{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

■ 細胞生物学分野 教授 藤室 雅弘

今年度より始まった短期留学に引率教員として8月3日から15日まで、米国のMCPHS (Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences) University（以下「MCPHS大学」と記述します）に滞在しました。学生の安全と充実した留学体験を第一に考え、初年度ということもあり、参加学生11人に対し、私の他に引率職員として天ヶ瀬講師、教務課の谷垣さん、国際交流推進室の佐々木さんの4人体制で引率にあたりました。

しかし、我々にとって、今回の短期留学プログラムは1年以上前から既に始まっていました。というのは、高校の修学旅行でも、海外へ行くような時代ですから、単なる海外での異文化体験だけで終わるプログラムであってはいけない、という意識があった

からです。第2期中期計画「長期休暇を活用した語学研修制度の導入」推進メンバーにより、京都薬科大学の学生が満足するプログラムにするためには、何が必要かを考えながら、留学先の選定とプログラム作成を行いました。選定するにあたって、様々な国が候補にあがりましたが、日本の薬学の一步先を行く国に、ということで、米国に絞りました。その中でもハーバード大学やマサチューセッツ工科大学 (MIT) など、世界中の科学を志す若者にとって最も刺激的な街であり、京都とも姉妹都市のボストンにキャンパスをもつMCPHS大学を選びました。そして、本プログラムと同じ時期の昨年夏、佐々木さんとともに、現地の下見を行いました。実際に学生達が学ぶキャンパスを巡り、滞在予定の寮・設備・大学周



MCPHS大学 ボストンキャンパス前

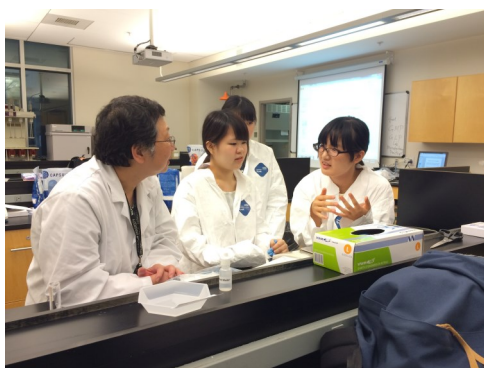
辺の安全を確認し、受け入れ校の担当者との打ち合わせを行いました。

帰国後、具体的なプログラムの作成に入りました。1日の基本スケジュールは午前中に英語学習(ESLクラス)を行い、午後は薬学専門科目の受講と病院・薬剤部見学としました。その中で、思案を重ねたのは、薬学を志す学生に特化して考えたときの専門科目の内容でした。アメリカの薬剤師と日本の薬剤師の違いをPharm. D. を持つ米国薬剤師から直に話を聞くことや、個別化医療や医療のIT化について最先端を進む米国でこそ学ぶべきと考え、それらを午後のクラスに加えました。また、海外の学生と日本の学生を比べた時、日本の学生がもっと身につけなければいけないと思うのは、英語でのプレゼンテーション能力です。しかし、一朝一夕には身に付かないのが現実です。今回の留学では、こういったスキルアップのためのモチベーションを高めることも目的の一つでした。そのような希望をMCPHS大学のスタッフに伝え、夏休み期間に講義をしてくれる教員の確保には思いのほか時間がかかり、参加学生にはギリ

ギリまで具体的な講義内容をお伝えすることができず、申し訳なく思っています。

さて、現地での学生の様子ですが、私が思っていた以上に、積極的に講義や見学で発言していました。また、病院実習中のPharm. D. コースの学生と議論したり、一緒に食事をする機会もあり、自分のヒヤリング力、スピーキング力に落ち込んだり、あるいは、言いたいことが伝わった嬉しさに満面の笑顔を見せる学生など、京薬の講義の中ではみられないような表情を垣間見せてくれました。また病院見学も、通常の語学留学では体験できない機会であり、彼らの好奇心をおおいに刺激してくれたように思います。そして、空いている時間は寸暇を惜しんで、ショッピングや観光に出かける若いエネルギーに驚きつつ、見守っておりました。

短い期間ではありましたが、この体験が彼らの今後の学びに刺激を与え、語学のみならず、国際的な視野をもち、修学意欲や薬学研究に向かうことをおおいに期待しております。



調剤実習でChuong先生に質問



ハーバード大学付属病院薬剤部見学にて質問



MCPHS大学キャンパスツアー



MCPHS Practice Lab. (模擬薬局) 見学



MCPHS大学の先生方の前でプレゼンテーション



休憩時間にMCPHS Pharm. D. コースの学生と談笑

《 MCPHS大学短期留学スケジュール 》

(現地時間)

	AM (9:00~11:30)		PM (13:30 ~ 16:00)	PM (16:00~)	Stay
8/3 (Mon)	12:30 伊丹空港集合		14:35 伊丹空港発 15:55 成田空港着	18:15 成田空港発 18:15 ボストン空港着 20:00 寮にCheck-in	ボストン キャンパス寮
8/4 (Tue)	ESL Class (Daryl Morazzin先生) 11:45 IDカードの作成		Pharmacy Lecture: 調剤実習(カプセル剤作製) (Monica Chuong 准教授) 病院訪問:3グループに分かれて ①Brigham & Women's Hospital ②Dana Farber Cancer Institute ③Beth Israel Deaconess Medical Center	16:30 ハーバードスクエア散策 (全員)	ボストン キャンパス寮
8/5 (Wed)	ESL Class (Daryl Morazzin先生)		Pharmacy Lecture: 調剤実習 (子供用ローチグミキャンディ剤調剤、 歯磨きチューブ剤調剤) (Monica Chuong 准教授)	16:00 MIT自主見学:2グループに分かれて	ボストン キャンパス寮
8/6 (Thu)	ESL Class (Daryl Morazzin先生) 12:00 Campus Tour 案内役:Ms. Sydney (PharmDコース 3年) Ms. Sydneyを囲んで昼食&意見交換(全員)		14:00 寮Check-Out Depart for Worcester by Bus	16:00 Global Reception by MCPHS 京都薬科大、浙江大学、 MCPHS職員、新潟薬科大	ボストン キャンパス寮
8/7 (Fri)	ESL Class (Daryl Morazzin先生) 12:45 Pharmacy Practice Lab Tour (実務実習施設の見学) (Joseph Ferullo准教授,Catherine Taglieri助教)		G1:ウインシーマーケット散策(女子) G2:ハーバード大のSusan J Hagen先生と USS(海軍船舶博物館)と インナーハーバー訪問(男子)	16:00 Worcesterキャンパス周辺散策 +スーパーで買い物(全員)	ウースター キャンパス寮
8/8 (Sat)	6:20出発 電車でボストンへ Harvard University Unofficial Tour (ハーバードの学生ガイド)に参加(全員)	ラン チ タ イ ム	G1:ニューベリーStとボイルストンStで買い物(女子) G2:フリーダムトレイルのジョギング・散歩(男子)	全員揃って電車でウースター寮へ	ウースター キャンパス寮
8/9 (Sun)	6:20出発 電車でボストンへ Fenway Park(レッドソックス野球場)散策(全員) Boston Museum(ボストン美術館)見学(全員)		Presentation by KPU学生 (京都・山科・KPUの紹介 & 日米の薬剤師業務の相違について) Pharmacy Lecture: The US health care system (北米の保険行政) (Seoane-Vazquez准教授)	全員揃って電車でウースター寮へ	ウースター キャンパス寮
8/10 (Mon)	ESL Class (Michael Greene先生)		Pharmacy Lecture: Pharmacogenomics & Personalized Medicine (ゲノム薬理学 & 個別化医療) (Acquaah Mensah先生)	16:30 Black Stone Valley Shopping centerで買い物(全員)	ウースター キャンパス寮
8/11 (Tue)	ESL Class (Michael Greene先生)		Pharmacy Lecture: Mobile Technology & Digital Health (モバイルテクノロジーと医療) (Timothy Augst先生)	16:00 交流会 MCPHS学生4人(Pharm.D. course) + Augnst夫妻と大学前レストランにて	ウースター キャンパス寮
8/12 (Wed)	ESL Class (Michael Greene先生) 10:45 St.Vincent病院訪問		Presentation by KPU学生 (日米の薬剤師業務の相違について) およびMCPHS学生とのディスカッション Pharmacy Lecture: Pharmaceutical System in the U.S.A (Timothy Augst先生)	16:00 farewell party MCPHS学生4人(Pharm.D. course) + Augnst先生とキャンパス内談話室にて	ウースター キャンパス寮
8/13 (Thu)	ESL Class (Michael Greene先生) Caroline Zeird 教務国際副総長 修了証明書の授与				
8/14 (Fri)	8:00 寮Check-Out 9:15 ボストン空港到着		13:30 ボストン空港発		飛行機中泊
8/15 (Sat)				16:00 成田空港着 18:30 成田空港発 19:50 伊丹空港着	

■8月3日～7日まではBostonキャンパスに、8月7日～14日はWorcester (ウースター) キャンパスに滞在した。

■1日の基本スケジュールは、午前(9:00-11:30)は英語(English as Second Language: ESL)クラスを受講し、午後(13:30-16:00)はアカデミックプログラムとして、薬学専門科目の授業・実習(ワークショップ形式)の受講、または病院薬剤部見学を行った。



MCPHS大学 Pharm. D. コースの学生と



MCPHS大学 カフェテリア



MCPHS大学 ボストンキャンパス寮の室内

■ 国際交流推進室 佐々木 雄太

今回、学術交流協定校であるMCPHS大学に国際交流推進室の担当として、引率しました。概要は次のとおりです。

<ボストン市概要>

マサチューセッツ州最大の都市であり、アメリカの中で最も歴史の深い町である。ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学等、市内および周辺地域には60以上の総合・単科大学があり、高等教育の中心地であるとともに、医療の中心地でもある。また、アメリカ国内でも最も安全な都市の一つとされている。1959年には京都市と姉妹都市協定を締結している。ロブスターやクラムチャウダーが名物。

<MCPHS大学概要>

旧名：Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences

創立：1823年

(参考：東京大学1877年。本学1884年)

特徴：全米の薬系大学の中で2番目に古く、最も規模が大きい。各キャンパスには最先端の設備・実験室を備えており、多数の病院と提携していることから多様な臨床体験を積むことができる。薬学部他に看護や歯科衛生等18のプログラムがある。

キャンパス：ボストン、ウースター、マンチェスター



アメリカ合衆国
赤色部分がマサチューセッツ州



マサチューセッツ州 拡大図



MCPHS大学 ボストンキャンパス講義棟（寮併設）



セントビンセント病院見学で
薬剤師のSpooner先生に質問

<感想>

今回の留学の目的は、基礎から薬学英语までの内容を実践の場で学習し、今後の英語学習意欲の向上に繋げることと、米国の最先端の授業内容を受講したり、ボストンの世界有数の病院薬剤部を見学することにより、グローバルな視点を養い、「ファーマシスト・サイエンティスト」育成の一助とすることでした。

近年、益々グローバル化されていく日本社会においても、自分の所属するコミュニティ、文化、地域のこと以外、つまり自分の範囲を超えたところも語れる、関心を示せる人材が求められてきていると思います。今回MCPHS大学に第1期生として留学した11名の学生は、この非日常の体験から、自分自身や日本の薬学、文化について、もっと客観的に理解する必要があること、クラスで隣に座っている仲の良い友達だけでなく、世界の多様な学生と競争していく必要があることを感じたのではないのでしょうか。

参加した学生には、異文化体験で味わった楽しさや悔しさを忘れることなく、今後も日常のあらゆる場面でのアプローチをレベルアップさせることに加え、国際・芸術都市である京都の大学生として、薬学だけでなく、国際交流、教養を高めることにも力を入れていただきたいと思います。

11月には本留学プログラムについて、来年度のガイダンスを行う予定ですので、興味のある方は積極的に参加してください（百聞は一見に如かず）。

あやか
■ 3年次生 杉山 絢香

アメリカへの留学プログラムに参加したのは、アメリカに行って生きた英語にふれて英語力を伸ばしたいと思っていたことに加えて、アメリカの薬学生がどのような環境で学んでいるのか興味を持ったからです。

プログラムは英語の授業、薬学関係の授業や病院見学がありました。英語の授業で特に印象に残っているのは、一定時間与えられたテーマについて英語で会話し続けるというものです。初めのうちはなかなか話が続き、もどかしい気分になりましたが4日ほどたった時には会話を楽しめるようになっていま

した。

病院見学では色々なところを見学しながらアメリカの薬剤師がどのように働いているか教えてもらったり、日本との違いについて話したりして驚くことがたくさんありました。プログラムだけでなく自由時間でも現地の人とコミュニケーションをとっていくなかで得られたものもたくさんありました。

しかし、日本の薬剤師に関することについての理解や英語力が不足していたために日本とアメリカの違いについて話をする時に苦勞することもありました。そのため今後の学生生活ではもっといろいろなことに興味を持って学んでいくと共に、英語の勉強にも力を入れていきたいです。

■ 3年次生 丹波 綾香

今回の留学の2週間は、私にとってとても貴重で濃厚なものとなりました。今後の自分のあり方を考えさせられ、自分の中で確かに変化したものを感じ、そして最高に楽しい2週間でした。

中でも衝撃を受けたのは、向こうでの病院見学でした。アメリカの薬剤師は日本とは違い担う仕事の幅が広いと、病院の至るところで薬剤師の姿を目にすることができました。薬剤師は患者さんに直接触れ、ワクチンを打つこともできます。このことを私たちに教えてくれたのは、MCPHS大学の学生さんでした。

この2週間で、私が最も楽しいと感じたのは、その学生さんとの交流です。授業が終わった後に一緒にメキシコ料理を食べに行ったりパーティをしたり…。同年代の、しかも薬学を勉強している人たちと交流を持てる機会はなかなかないので、とても新鮮かつ刺激的でした。

この他にも、私は書ききれないほど数多くの貴重な経験をすることができました。引率の先生方や今回の留学に携わって下さった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。今回の留学で学んだこと、感じたことは微塵も無駄にせず自分へ、そして周りへ還元していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

■ 3年次生 堀口 大介

2015年8月、2週間ほどアメリカ合衆国の東海岸に位置するマサチューセッツ州のMCPHS大学にて英語留学プログラムに参加してきました。

1週目はボストンキャンパスにて、主にアメリカの文化や慣習について学び、2週目はウースターキャンパスにて専門的な内容(医療経済学、遺伝薬学、医療IT技術など)を学びました。授業は全て英語でしたが、今まで京薬で学んできたことと被る内容もあり、容易ではなかったですが理解を深めたり、新たな発見をすることが出来ました。またアメリカの学生とお互いにプレゼンをし合う機会もあり、言語の

違う相手に対して言いたいことを伝えることや質問の意図を汲み取ることの難しさを学びました。

休日は、自由観光をすることができ、私は陸上部ということもあり、フリーダムトレイルというアメリカ独立戦争にまつわる16ヶ所の史跡を巡るコースを走りました。

本学でのアメリカ留学は、勉強もプライベートも大いに充実しており、非常に満足のできる内容でした。この体験で専門である薬学はもちろん英語に対する勉強のモチベーションが上がりました。来年以降、参加を考えている方は、有意義なプログラムなので是非検討してみるといいと思います。

じょうなん
■ 2年次生 上南 静佳

2015年8月3日から15日までの約2週間、米国マサチューセッツ州にあるMCPHS大学への短期留学に参加しました。研修に参加する前の私は、毎日の講義や課題、バイトに追われ、自分の進路の方向性も見えないままに大学に通っていたように思います。

研修中は幾度となく、言語の問題が付きまといました。自分の意見を多くの人に伝えるにあたって、言語の重要性を再認識しました。しかし、実際英語が上手く使えないことよりも悔しかったことは、学術講義や学生達との討論の中で、薬学に関する専門知識や日本の医療制度に関して、自分がいかに無知であるのかを思い知らされたことでした。そこで改

めて、積極的に学ぶ姿勢が欠けていた自分に気が付きました。また、他国の医療系大学の学生・教授が集まった交流会では、自分の夢を語る学生が多くいたことに驚き、意見を交換することで、自分の夢の可能性が広がったように感じます。

これからは、言語力やコミュニケーション能力向上に加え、何事にも探究心を持って、積極的に学ぶことを意識して行動していきます。このような気づきの機会を与えてくださった大学に感謝申し上げます。

よねおか ななこ

■ 2年次生 米岡 那夏子

私の留学の目的は“自分を変える”ことでした。大学に入って2年目になり、受験期からの憧れと薬剤師という職業の現実が入り混じった中で、自分が受け身になっている感覚があり、何かを変えるためのきっかけが欲しいと思っていました。その目的を達成するという面で、今回の留学は大いに意義があり、成功したものと言えます。

初めて英語だけの薬学の講義を受け、同じ目標に向かって学ぶ他国の大学生と話をすることで、将来に対するモチベーションが高まりました。

特に印象に残っているのは、現地の大学生や先生

方と一緒に食事に行った時のことです。日本の薬学教育や流行など普段身近にあるものについてうまく話せず悔しくも思いましたが、英語で世界中とコミュニケーションをとれることの喜びを知りました。

また毎日が発見や驚きの連続で、もっと学びたい、理解したいという気持ちが生まれ、今後の目標ができました。周りの支えや意識の高さ、私の拙い英語に一生懸命耳を傾けてくださったMCPHS大学の先生方のおかげで充実した日々を過ごすことができました。このような機会をいただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。今回の経験を糧として、これからも頑張っていきたいと思います。



ウースターからボストン観光に出発！



ボストン美術館



ステーキハウスにて

■ 2年次生 伊丹 里花

私はこの夏2週間のMCPHS大学留学に参加しました。この留学が初めての海外渡航だったので、英語がしゃべれない私にとっては不安でいっぱいでした。

講義内容は午前は英語の授業で、発音の練習やアメリカの文化を学んだり2人組で会話の練習など、楽しい授業でした。午後は病院見学などの実習や薬理学や薬局システムなどについて学び、アメリカでは調剤は調剤師が行い、薬剤師はワクチン接種や血液検査を行うことができると知った時はとても驚くとともに、アメリカの薬剤師は権限が広いと感じました。

休日はハーバード大学とマサチューセッツ工科大

学のツアーやボストン美術館へ葛飾北斎展を見に行ったり、ボストンの町を散策することができてとても楽しかったです。また、中国人留学生やMCPHS大学生との交流パーティーもあり、お互いの文化や趣味について、たどたどしい英語ながらも楽しい時間を過ごすことができました。

普段英語で会話する機会がなかったので、英語がなかなか聞き取りにくく何回も聞き直してしまうことが多くありました。また、知っているはずの単語も忘れてしまい、思ったことをうまく伝えられないことも多く、もっと英語力を上げる必要があると感じました。

この2週間で海外の文化に触れることができ、とても貴重な経験をすることができました。この経験を将来に活かしていきたいと思います。

■ 2年次生 折方 琴音

まず初めに、今回の留学プログラムに参加させていただきただけに感謝いたします。

さて、今回の留学が、私にとって初留学でしたが、非常に実り多いものでした。元々、英語が苦手、嫌いだったのですが、将来、国際的に活躍したいと思っていたので、このプログラムに参加しました。と言っても、英語が苦手なため、授業や病院見学の説明が完璧に理解できたとは到底言えません。しかし、逆に、ここまで理解できるようにならねばいけないのだと知ることができました。

まずは、この留学で英語に対するマイナスイメージは払拭できました。次は、薬学の専門的なことま

で理解できる語彙力、リスニング力をつけていきたいです。そして、自分を高めてくれたもう一つのこととは、他国の生徒と、自分の夢などについて語り合えたことです。日本にいと、なかなか夢や薬学部に入學した理由について真剣に語り合う機会はありません。しかし、他国の生徒とは自然にこのような会話をしていることが多く、色んな話を聞くことができ、世界が広がりました。

最後になりますが、今回の留学に引率して下さった4名の職員の方々、その他今回の留学に関わってくださった全ての方々に感謝いたします。そして、たくさん助けてもらった10人の留学メンバーにも感謝します。みんなとこの留学に参加でき、本当に良かったです。

■ 2年次生 澤田 ひかり

今回の短期留学では、多くのことを学んだ。私は、特に医療におけるアメリカと日本の違いに驚かされた。アメリカでは、iPhoneと連動させて使用する機械やアプリによって血糖値などが測定でき、さらにその情報が医師に転送されるなど、とても近代的なシステムが確立されている。日本でもこのような機械やアプリは存在しているようだが、あまり浸透していない。これからは、日本でもこのようなシステムが活用されるべきではないかと思った。

逆に、日本の医療に対してMCPHS大学の方々も驚か

れていた。例えば、日本の薬剤師の役割が幅広い点である。アメリカでは、いくつかの専門で分類されており、決めた専門の薬剤師にしかねない。このように、各国で医療の考え方が異なることが知れた。

また、MCPHS大学の学生さんとも交流する機会があり、医療についてだけでなく、お互いの文化についても話し合うことができ、とても楽しい時間を過ごすことができた。

MCPHS大学への留学によって、英語のスキルを上げるだけでなく、自分の医療に対する理解も深まった。この経験を将来にも生かしたいと思う。

■ 2年次生 藤田 かほ

MCPHS大学での2週間の留学において、今までには味わったことのない充実感と沢山の刺激を受けました。

講義では主にアメリカの文化について、専門的な薬物動態や薬理について学びました。病院や薬剤部の見学に行ったり、調剤実習では日本とは違った様々な調剤をしました。日本の医療制度、薬剤師業務との違いや医療の高度化など実際に目で見たり聞いたりすること全てがとても刺激的でした。

MCPHS大学で学ぶ薬学部生と交流する機会も沢山ありました。初めはためらいましたが、次第に積極的に会話できるようになり、一緒にご飯を食べ音楽の話で盛り上がりたりして、英語で会話することがとても楽しくなりました。講義でも会話でも十分に理解できない時はとても悔しく、自分でもっと勉強したいと思いました。

土日にはハーバード大学やボストン美術館に行ったり、ロブスターを食べたり、ボストンの街並みに感動したりとボストンの文化にも触れ充実していました。

多くの体験により、薬学、英語についての意識関心が高まっただけでなく、自分の視野が大きく広がりました。日本人以外の方との交流の中で日本人との気質の違いや考え方、感じ方の違いに触れることで、世界にも意識を向け、自分の考え方ももっと前向きに様々なことに挑戦しようと思うようになりました。あっという間の2週間でしたが、私の中ではとても大きな変化を与えてくれた貴重な2週間でした。

このプログラムに参加でき本当に良かったです。連れて行って下さった先生方、MCPHS大学の方々、一緒にプログラムに参加した皆、アメリカで出会った沢山の方、送り出してくれた両親に感謝します。この経験をこれからの学習や生活に活かしていきたいです。

■ 2年次生 山下 直人

2015年夏、私はアメリカ合衆国のMCPHS大学への短期留学プログラムに参加しました。

11泊13日のプログラムで、最初の1週はボストンキャンパスにて、2週目はウースターキャンパスにて英語での講義を受けました。

すべて英語で進められる講義だったので質問を理解することもそれに対して解答することもとても難しかったです。また、講義後の空き時間や休日にはボストン市内を観光しました。食事のためにレストランに行ったり、お土産を買うためにショップに立ち寄ったりしましたが、そこでも相手の言う事はよくわからないし、自分の英語は思うように相手には

伝わらず、とても苦勞しました。病院見学にも参加しましたが、目に見えるものだけしか分からず、案内して下さる方の話はほとんどわかりませんでした。

科目としての英語にはそれなりの自信があり今回のプログラムにも参加を決めました。現地では英語でのコミュニケーションがうまくとれず、歯がゆい思いをしました。しかし、プログラムに参加してよかったと思っています。自分の英語力の足りなさに気づき、もっと英語を勉強しようと思えたからです。なので私は、英語学習のモチベーションを高めたいと思っている人にこのプログラムをお勧めしたいです。

■ 2年次生 吉澤 正人

アメリカの学生は疑問があれば、先生が講義をしている最中であってもどんどん質問をし、一つひとつの疑問を解消して、次の段階に進むようにして学んでいた。しかし、私は講義中に積極的に質問をすることができなかった。また、質問に対して指名されなければ、自分から答えようとはしなかった。私は日本での毎日の講義を真面目に受けていたが、私には主体的に学ぶ姿勢が欠けていることに気づかされた。また、講義中に行った双方のプレゼンテーションからは、日本とアメリカの薬剤師の類似点や相違点を発見することができた。

日本では6年制薬学教育を卒業した者に学士（薬学）が与えられるのに対して、アメリカではPharm. D. という職能学位が与えられる。Pharm. D. の修得方法には2つの方法がある。1つ目は、prepharmacy schoolでの教育（2年間）の後、4年間

の薬剤師養成課程を経て、2年間の研修を修了し修得する方法である。2つ目は、一般的な大学での教育（4年間）の後、4年間の薬剤師養成課程を経て、2年間の研修を修了し修得する方法である。

薬剤師の職務としては患者に接し、鑑査、服薬指導、副作用のチェックを行うなどは同じであったが、アメリカの薬剤師にはワクチン接種が行える権限があった。また、日本では調剤は薬剤師の職務であるが、アメリカでは主にテクニシャンという別の職種が担っていた。調剤をテクニシャンが担っているからこそ、薬剤師は患者と接する機会が多くなり、十分に患者のケアができるシステムとなっていた。

短期間であったが、留学を通して異なる考え方や文化に出会えたことは大きな収穫であった。今後は諸外国の医療制度や薬剤師の在り方などについて広い視野に立って学びを深め、自身の理想とする薬剤師像の構築に活かしていきたい。



ESLコース修了証が最終日に授与されました



BOSTON RED SOXのホーム球場前にて

6年制薬学の4回目（第100回）の薬剤師国家試験が2015年（平成27年）2月28日、3月1日に実施されました。全体の難易度は前回（第99回）とほぼ同じと考えられますが、引き続いて一つ一つの事項について深く問われるだけではなく、思考力や応用力が求められています。つまり、単なる暗記では対応できない試験となっています。具体的には、実験データに基づいて考えさせる問題や医療現場での実践的な問題、さらには新傾向の問題が数多く（約20%）出題さ

れています。また、高校で習った基礎事項や有機化学に関する歴史的事実なども出題されていることから、基礎を疎かにせず、1年次から幅広く真面目に学習に取り組むことが資格を取得する上で重要であることは明らかです。このように、6年制薬剤師国家試験は、医療に軸足を置いた、実践力および問題解決能力が期待される6年制薬学にふさわしい内容に変化し定着しつつあると言えます。

表1. 男女別、受験区分別および国・公・私立別合格率

①男女別合格率

区分	総数	男		女	
出願者	16,546名	6,876名	41.56%	9,670名	58.44%
受験者	14,316名	5,766名	40.28%	8,550名	59.72%
合格者	9,044名	3,462名	38.28%	5,582名	61.72%
合格率	63.17%	60.04%		65.29%	

②受験区分別合格率

区分		総数	男		女	
6年制 新卒	受験者	8,446名	3,296名	39.02%	5,150名	60.98%
	合格者	6,136名	2,402名	39.15%	3,734名	60.85%
	合格率	72.65%	72.88%		72.50%	
6年制 既卒	受験者	5,260名	2,111名	40.13%	3,149名	59.87%
	合格者	2,794名	1,006名	36.01%	1,788名	63.99%
	合格率	53.12%	47.66%		56.78%	
その他	受験者	610名	359名	58.85%	251名	41.15%
	合格者	114名	54名	47.37%	60名	52.63%
	合格率	18.69%	15.04%		23.90%	

③国・公・私立別合格率

区分	総数			6年制新卒			6年制既卒			その他		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
国立	694名	521名	75.07%	473名	398名	84.14%	101名	70名	69.31%	120名	53名	44.17%
公立	309名	233名	75.40%	228名	189名	82.89%	51名	31名	60.78%	30名	13名	43.33%
私立	13,312名	8,290名	62.27%	7,745名	5,549名	71.65%	5,108名	2,693名	52.72%	459名	48名	10.46%
本学	425名	337名	79.29%	365名	300名	82.19%	53名	37名	69.81%	7名	0名	0.00%

さて、表1の通り今回の試験では、国公私併せて73大学の学生が受験し、受験者総数14,316名中、合格者は9,044名（合格率63.17%）でした。前回の総合合格率が60.84%でしたので、約2%合格率が上昇したことになりますが、この試験では、解なし問題が3問、補正対象問題が11問、計14問分が加点されことで救済された受験者が少なからずいたのも事実であり、合格率の上昇はこのような措置に依るところが大きいと考えられます。また、第100回から出願者数も公表されることになりました。つまり、出願者数と受験者数の差から卒業延期者（留年者）数が分かることから、卒業者を絞り込んで、見かけの合格率を上げようとする姑息な手段が通用しなくなったと言えます。6年制新卒の全国合格率は72.65%（前回：70.49%）でした。また、6年制既卒者の合格率は53.12%と相変わらず低いものとなっていますが、前回（39.85%）に比べて約13%上昇しています。これは、残念ながら前回不合格となった既卒者が相当な危機意識を持って国試対策に取り組んだ結果と言えます。本学では、新卒者365名が受験し、合格者は300名（合格率82.19%）、4年制既卒者は7名受験して合格者は0名、6年制既卒者は53名受験して合格者は37名（合格率69.81%）で、総合合格率は79.29%（全国総計63.17%）でした。上記の通り、既卒者の合格率は依然低いことから、4年制卒業者は言うまでもなく、6年制既卒者ですら国家試験に合格することは一

層厳しくなっており、一度での合格を目指すべきと考えます。

第100回薬剤師国家試験において、難易度は第99回と同程度か幾分上昇し、それにより合格率は低下するであろうと予想されていましたが、蓋を開けてみれば救済措置によって合格率50%台という最悪の結果は回避され、何とか60%台に踏みとどまったと言えます。全体の結果のいかに拘わらず、本学の新卒受験者の不合格者数が65名であったことは、重く受け止めなければなりません。しかしながらその中でも、本学が全国総合10位（73校中）であった要因として、1）夏期講習および薬学特別演習の出席率が非常に良かった、つまり学生が真剣に勉強に取り組んでいた、2）指定学生は講義後、さらにその日に学んだ内容に関する演習問題に主体的に取り組んだ、3）学生に関する情報（出席状況、指定学生の課題取り組み状況、模擬試験の成績等）を、当センターと分野間で共有できていた、4）当センターでの質問対応や個別の学習相談、また模擬試験の成績下位者に対する面談による現状の把握と意識改革を行うなどして総合的な学習フォローアップを行ったことなどが考えられます。

次に、今春卒業した本学学生の学業成績（専門必修講義科目の評定平均）と国家試験合格との関係を調べてみました。表2に示しますように、評定平均85点以上の卒業生は全員合格していますし、評定平均

と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。即ち、評定平均が下がるにつれて、卒業率および合格率も低下傾向にあります。このことは、日頃の学習が如何に大切かを物語っています。つまり、

日々の勉学を怠らないことは必須のことですが、学業成績（評定平均）が芳しくない学生が国家試験格を目指すには、早期からの準備と一層の努力が必要と言えます。

表2. 評定平均*と合否との関係

評定平均	学生数	卒業者数	合格者	不合格者	卒業・合格率 (%)
95点以上	0	0	0	0	
90点以上95点未満	8	8	8	0	100
85点以上90点未満	22	22	22	0	100
80点以上85点未満	50	50	49	1	98
75点以上80点未満	86	83	74	9	86
70点以上75点未満	131	123	97	26	74
65点以上70点未満	97	78	50	28	51.5

* 専門必修講義科目の平均点

本学6年制4期生に対しても、昨年度と同様に今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データの協力を要請したところ、365名の受験者中330名（入力率90.4%）の協力があり、前回（76.9%）に比べて大幅な入力率改善が認められました。表3に示しますように、総合正答率は72.33%（3期生72.9%）と昨年度とほぼ同じでした。平均正答率

30%未満の問題が20題あり、その内訳は必須問題で0題（前回2題）、薬学理論問題で11題（前回11題）、薬学実践問題で9題（前回13題）でした。特に、物理・化学・生物は、必須問題および一般問題で他の科目に比べて正答率が低かったことから、難易度が他の科目に比べて高かったと言えます。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必須問題						
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務
問題数	15	10	15	15	15	10	10
最低点	6	5	9	8	7	4	4
平均点	11.5	8.7	14.0	13.1	12.2	7.8	8.5
最高点	15	10	15	15	15	10	10
平均正答率	76.7%	87.0%	93.3%	87.3%	81.3%	78.0%	85.0%
学内全体（新卒）	83.41%						
全国（新卒）	82.02%						

問題区分	理論問題						
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	合計
問題数	30	20	15	15	15	10	105
最低点	8	3	4	3	5	0	38
平均点	16.3	10.5	11.9	9.3	10.4	8.5	67.0
最高点	25	18	15	14	15	10	88
平均正答率	54.3%	52.5%	79.3%	62.0%	69.3%	85.0%	63.8%
学内全体（新卒）	62.81%						
全国（新卒）	59.51%						

問題区分	実践問題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	15	10	10	10	10	10	85	150
最低点	4	0	3	2	4	4	46	76
平均点	10.2	6.3	7.4	6.9	7.7	7.2	64.2	110.0
最高点	15	10	10	10	10	10	77	136
平均正答率	68.0%	63.0%	74.0%	69.0%	77.0%	72.0%	75.5%	73.3%
学内全体（新卒）	72.35%							
全国（新卒）	69.95%							

＜第101回薬剤師国家試験に向けて＞

次回の国家試験の難易度が下がるということは無いとみてよいでしょう。また、第100回のような救済措置による加点を期待してはいけません。何れにせよ、6年制薬学に相応しい、より実践的な内容が出題され、真の実力が試される試験となるでしょう。さらに、最新の医療や話題が出題されていることから、常にそれらに関する情報を収集する努力をすることも大切です。まずは国家試験の合格基準を確認し、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭することが肝要です。第100回国家試験では、特に物理・化学・生物の必須問題で、ボーダーラインに引っ掛かって不合格となった卒業生が少なからずいました。基礎系科目、すなわち物理、化学、生物は他の科目の基礎となりますが、定着するには時間がかかるため、反復学習が重要となりま

す。是非とも苦手意識を払拭し、弱点を早期に克服してください。国家試験では内容が偏ることなく出題されますので、重要項目を中心に広く深く（理解しながら）勉強することが大切です。仮に過去問が出題されることがあっても、そのままの形で出題されることはありません。しかしながら過去問を無視することはできませんし、過去問のみでは合格できません。先輩の良い行いは見習い、良くないと思われる行いは反面教師としてください。今、成績が良くないと感じている学生は、早い段階から国家試験合格に向けた準備と努力が必要です。努力は決して皆さんを裏切りません。教科に関する質問については、まずはオフィスアワーを利用してください。当センターでは皆さんの学習面でのサポート（学びコンシェルジュなど）をしておりますので是非ご利用下さい。

優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図ることを目的として2010年度に創設しました給付型奨学金制度につきまして、今年度も、新入生については入学成績が特に優秀であった学部新入生10名及び大学院新入生3名、在學生については前年度の成績が優秀な2年次生から5年次生の各学年20名及び1～5年次の総合成績が特に優秀な6年次生20名の合計113名が奨学生に選ばれ、奨学金が給付されました。

また、表彰式が6月15日(月)に執り行われ、武田理事長から表彰状が授与されました。

学生の修学支援のためのこれらの奨学金は、卒業生(京薬会会員)、法人役員、職員、ご父母(教育後援会会員)の皆様からのご寄附により成り立っております。

皆様からの多大なるご協力に紙面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

学部新入生

浅野 光二
植田 ひかり
岡田 紗英
奥村 拓海
蒲田 歩美
竹中 瑛子
田中 沙季
中尾 優斗
西口 祐太
林 結菜

大学院新入生

大西 康司
柿花 采那
田中 晶子

学部在學生

2年次

荒田 竜佑
岩崎 年示
上野 花純
岡田 麻里奈
奥 大輝
北野 美鈴
木村 明穂
久保田 知沙
近藤 悠斗
阪口 鈴菜
佐藤 未来
戸田 力也
長岡 亜佐実
萩野 真理
姫野 恵利那
本田 梨紗
松尾 有紗
南野 小百合
三宅 悠太
吉澤 正人

3年次

浅田 早紀
岡山 雅美
金田 彩花
川田 奈実
河村 友惟
川本 直子
岸本 真里子
熊野 瑛巴
國府谷 彩香
小堀 栞奈
齋藤 菜月
佐藤 真琴
柴田 かおり
杉山 絢香
鈴木 友菜
田中 美咲
田中 佑果
中小路 千晶
村上 穂波
山崎 麻美子

4年次

浅田 裕美子
足尾 真美
飯間 莉紗
梅原 祐奈
大谷 拓也
面川 杏
梶木 香里
河添 有宏
新谷 朋子
杉浦 真優
杉本 みなみ
鈴木 宏枝
高木 寛子
砥上 宏子
中猪 彩
藤井 祐里愛
藤田 利沙
矢崎 由希子
安田 有沙
山添 晶子

5年次

青木 沙織
浅井 麻佑里
石山 彩奈
磯野 真央
宇田 歩未
小川 裕樹
川上 光
岸本 翔
小山 菜々子
佐分利 智子
団迫 湊
出井 小百合
富永 南
中尾 佳那美
西 貴之
橋本 みさき
藤原 麻紀子
本城 綾子
松本 卓也
吉田 健吾

6年次

赤谷 祥子
今井 梓嗟
岩貞 有紀
大前 敬子
梶山 あゆみ
島田 裕規
鈴木 智子
瀬尾 文菜
関 奈緒子
田中 千尋
辻 栞
辻村 真里
利川 麻美
内藤 千尋
西澤 侑希
野村 春菜
廣田 亜里紗
福田 浩紀
松井 宏樹
的崎 雅史



2015年度 給付型奨学生表彰者

本学では、遠隔地から本学に入学された学生の修学支援をより強化するため、2015年度に遠隔地出身学生給付型奨学金制度を創設しました。

遠隔地出身学生給付型奨学金制度は、近畿2府4県以外に自宅があり、下宿生活をしている1～4年次生(2015年度新入生より適用)に対し、面接等の選考を経て最大4年間奨学金を給付するものです。

今年度の遠隔地出身学生給付型奨学生は新入生10名が選ばれ、7月8日(水)に執り行われた奨学生証書授与式において、武田理事長から奨学生証書が授与されました。



遠隔地出身学生給付型奨学生証書授与式の様子

日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加して

Event

この度、8月8日～9日に東京府中で開催された日本薬学会第5回全国学生ワークショップ(WS)「私達のプロフェッショナルリズム、私達が築く医療と社会」に参加させて頂きました。今回のWSでは、69名(69大学)の薬学6年次生および卒業生である本WS第1～4回参加者30名が参加しました。

WSでは、薬学生が9班に分かれて小グループ討論(SGD)を行い、課題を整理し発表を行いました。SGDの内容はまさにテーマそのものでした。「プロフェッショナルリズムの要件とは?」、「プロとしてどのように社会貢献していくのか?」例えば、海外の薬局でロボットが調剤を行っていることが挙げられ、ロボットが人間に代わり仕事ができる今、プロの薬剤師としてすべき事について議論を行いました。私たちの班では、病院薬剤師の存在がまだまだ患者さんに認識されておらず、職域も狭い、そのため職域の開拓、例えば採血のオーダー権、フィジカルアセスメントの使用、一部(抗菌薬など)処方権の薬剤師への委託などを挙げ、より患者さんの傍で貢献し、薬剤師自身が患者さんの命を預かっているという自覚をもっと持つべきだという意見がでました。しかし、職域の開拓は、薬剤師が医師を含め誰よりも薬のプロであり、薬の適正使用に尽力できているという前提のもとに主張できることだと思います。そのため、薬物療法の提案等、積極的に薬剤師として介入していく事が必要だと思います。議論を進めていく中で、多くの人が現在の薬剤師の在り方に問題意識を抱いており、薬剤師の未来を広げ社会貢献したいという高い意識を持っていることを実感しました。

病態生理学分野 6年次生 菅 倫子

全国の各大学から薬学生が一堂に会するこの場で様々な意見に触れ活発な議論に身を投じることができた事、また様々な領域で活躍されている卒業生の方々と世代をこえて交流ができた事は非常に良い刺激となりました。それぞれの領域で活躍する仲間がいて、その仲間同士を繋げるネットワークを築くことができるのは薬学部の魅力だと思います。ここで出会えた仲間との繋がりを大切に、今回得られた経験を今後に活かしていきたいと思います。今後もこのWSの開催が続いてほしいと心から思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて下さった大学の皆様、日本薬学会関係者の方々に心より御礼申し上げます。またこの2日間を共にした仲間たちに深く感謝致します。



SGDでの一場面

3年目となる「医薬品開発のためのサマープログラム」が今年も開催されました。このプログラムは、臨床開発業務について英語で学ぶ、パレクセル・インターナショナル株式会社との共同プログラムです。

今年度は8月3日から7日、18日から21日の合計9日間、受講生は5年次生を中心とした15名となりました。講師はパレクセル社のSharon Huang先生とDagmar Peitsch先生に担当いただきました。

毎年のこととなりますが、開講当初、とても緊張していた参加者が、日が経つにつれ、積極的に講師とコミュニケーションをとっている姿が印象的です。ここに掲載している以外の感想文にも参加することに不安があったが、先生方が分かりやすく話してくれること

もあり、だんだん理解できるように、自分から発言するようになったと書かれていました。

コミュニケーションに関するだけでなく、臨床開発職に対する理解にもつながり、今後の課題も見つけたようでした。

参加した15名には、最終日の試験を経て、全員にCertificate（修了証）が授与されました。

パイロット版としてサマープログラムを3年間実施しました。来年度からは総合薬学研究実践薬学コース医薬開発ユニットの一部として7週間のプログラムになります。

みなさんの積極的な参加をお待ちしています。



全員にCertificateが授与されました



英語でPresentation

こやなぎ

■ 5年次生 小柳 明子

私ははじめ、CRO※1という職種にあまり興味がありませんでしたが自分の英会話のスキルを向上させたいという思いがあったのでこのプログラムに参加しました。

初回の授業ではあまりにも先生の言葉が聞き取れなかったのが本当にショックでした。そこで2回目の授業からは、予習として治験特有の単語をある程度理解してから臨むようにしました。するとかなり授業内容を理解出来るようになりました。

このSPは主に先生の授業を聞いて、その内のあるトピックについてチームごとにディスカッションして発表するという内容でしたが、私はチーム内で意見を出してまとめていくという作業が一番大変で、一番楽しかったと感じています。ディスカッションではそれぞれ、理解したこと・疑問に思ったこと・自分の考えを共有することでより治験について理解が深まりました。ディスカッションについてもう一つ感じたのは一人一人の意見が尊重されるという点

です。たった一人異なる意見を持っていたとしても発言することで他のメンバーが同調するという場面が多々ありました。私はチーム内でつい遠慮してしまうことがありましたが自分の感じたことを包み隠さず発言することの大切さを知りました。

総合的にみて、私はこの講義を受けて本当に良かったと感じています。治験について学べるのはもちろん、実際にCRA※2として働いていらっしゃる日本人スタッフの方の話を聞くこともできました。特に英語で仕事をしている方の話は、これから英語力を向上させたいと考えている私にとって本当にモチベーションにつながるものでした。発音やきれいな文章で話すことだけにとらわれず、相手の言葉を理解し自分の考えを伝えられるようになることが、最も重要で必要とされるスキルなのだと痛感しました。

医薬品開発やCROに興味がある人、英語力を向上させたい人はぜひ受けてみてください。思っている以上に得るものは大きいです。

※1: Contract Research Organization ※2: Clinical Research Associate

■ 5年次生 谷沢 陽介

僕がこのサマープログラム(SP)を受講した動機は、CRAの業務についての理解を深めると同時に、以前から独学で勉強していた自分の英語力が実際の業務でどこまで通用するのかを見定めることでした。

実際にSPが始まると、授業、テキストは全て英語で行われ、内容の深い理解を得ることは簡単ではありませんでした。周りの友達とのディスカッションを通じてようやく分かることも多々ありました。また、独学でTOEICを勉強し、ある程度の点数を持っていた僕よりも何もしていない友達の方が理解度が高かったりして、真の英語力とは何なのだろうと考えさせられました。そして最終的には、それはどの国の人ともコミュニケーションが取れる「英会話力」なのだという結論に至りました。

ドラッグ・ラグ解消のために、これからの日本には国際共同治験は必須となってくるので、それに携わるCRA職を志望する人間の英会話力の必然性を感じ



Sharon Huang先生

■ 5年次生 前田 実希

将来は新薬の開発に携わる職業に就きたいと考えており、治験に興味がありました。CRAについては授業で耳にしたことがあったのですが、今ひとつどのような業務を行っているのかは把握できておらず、CRAについて学びたいと思ったのが参加した大きな理由です。また、開発職には英語力が求められると聞いており、実際にはどの程度の英語力が必要なのかを疑問に思っていました。そこで、このサマープログラムに参加することで開発職として必要な英語力を体感し、自身の英語力を伸ばしたいとも考えていました。

実際、授業が始まってみると、自身の治験に対する知識の乏しさと聞き取れない英語の多さに大きなショックを受けました。初日は聞き取って理解することに必死で辛かったことを覚えています。しかし、全く聞き取れなかった英語も毎日聞いているうちに慣れ、最終日には自分自身でも驚くほどスムー

ズに耳に入ってくるようになりました。また、グループワークやディスカッションを通して仲間と内容を確認し合ったり、不明な点は日本人社員の方にも質問することができたので、治験やCRAの業務についても十分に理解することができました。

また、このSPでは授業外の時間でも、パレクセルのCRAとして働いておられる本学のOB・OGの方々から、モニタリング業務の事から就活のアドバイスまで、貴重なお話を非常に低い敷居で伺うことが出来ました。

僕はSPの間の1週間で他社のCROのインターンシップに参加したのですが、そのように間の1週間を有効活用することでさらに理解を深めることも可能でした。

今回の9日間は非常に濃いもので、普通では得られない経験を学生の間で得ることができ、気づき、課題を再認識できたことは非常に恵まれた事だと思います。このような機会を与えてくださった乾学長はじめ、パレクセルの方々、京薬のスタッフの方々に感謝致します。また、来年からはこのパイロットプログラムから新たな教育プログラムになるということで、1人の卒業生としてこのプログラムを見守りたいと思います。



Dagmar Peitsch先生

ズに耳に入ってくるようになりました。また、グループワークやディスカッションを通して仲間と内容を確認し合ったり、不明な点は日本人社員の方にも質問することができたので、治験やCRAの業務についても十分に理解することができました。

初日はこれからの授業についていけるか不安になりましたが、優しい先生と温かい仲間たちとの授業は楽しく、だんだんと治験についての知識が増えていくのは嬉しかったです。不思議なことに、プログラムを終えた今では授業が恋しく、本当に参加して良かったと思っています。CRAについて学べただけでなく、実際にモニターとして働かれている先輩社員の方にお話を聞くこともでき、自身の将来について考えるきっかけにもなりました。そして何より、自身の成長につながる9日間だったと思っています。

お世話になったSharon先生、Dagmar先生、パレクセルのみなさんそして大学職員の方々には大変感謝しています。本当にありがとうございました。

研究代表者 教授 安井 裕之
教授 小暮健太郎

2015年8月18日（火）13時30分から京都薬科大学愛学館3階A31講義室（愛学ホール）において、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されている「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づく疾患治療ファルマコメタロミクスの確立（2012年度採択：バイオメタル）」および「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノDDSの創成（2013年度採択：ナノDDS）」の合同成果発表会を開催した。



口頭発表の会場の様子（愛学ホール）

両プロジェクトには、本学から14分野、学外から5施設が参画しており、今回の合同成果発表会には、他大学（徳島大学、名古屋市立大学、神戸女子大学および姫路獨協大学）からの共同研究者も併せて196名（教育職員、事務職員、大学院生、学部学生）にご参加いただき、盛会となった。



ポスター発表の会場の様子（躬行館食堂）

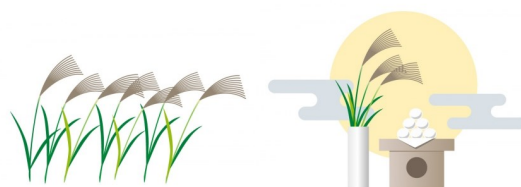
各プロジェクトから代表者による3演題ずつの口頭発表を行った後、躬行館1階食堂に移動し、ポスター発表（26演題）を行った。口頭発表では、質問時間を超えるほど活発な質疑応答がなされ、またポスター発表では、学部学生・大学院生も交えて活発な討論が行われた。

今年度は、ナノDDSの中間評価の時期にあたるため、外部評価者として静岡県立大学の奥直人教授と大阪大学の中川晋作教授にお越しいただき、口頭発表およびポスター発表を聞いていただいた後、ご講評をいただくことができた。お二人の先生からは、本学の研究アクティビティーの高さを評価していただくとともに、「共同研究のさらなる活性化」と「基礎研究と臨床研究のバランスの重要性」をご指摘いただくことで、今後の我々の課題として取り組むべきものであることを、改めて認識させていただいた。



外部評価者の先生方による講評

今年度、さらに2つのプロジェクトが採択されたことから、今後各プロジェクト間で情報交換を活発にするとともに刺激し合うことで互いのプロジェクトが推進されることを期待している。



学生実習支援センター 助教 高尾 郁子

8月9日（日）本学実習室にて、市民組織「山科区“人づくり”ネットワーク」と共に、理科実験講座「身近な夏の不思議体験2015イン山科」を開催した。理科の楽しさを知ってもらいたいと2011年度から始まったこの講座は今年で5回目を迎え、参加児童のリピート率が高い本学の夏の恒例行事になっている。当日は学生実習支援センター教員と企画・広報課職員のほか、約30名の地域ボランティアスタッフのサポートのもと、山科地区の児童（4～6年生）105名が午前と午後の部に分かれ、身近な科学の不思議を体験した。



真剣なまなざしで実験を行う児童

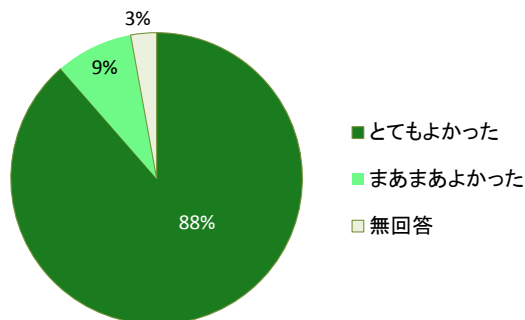
今回は小学5年生で習うヨウ素デンプン反応をテーマに3種類の実験を行った。「なぜおもちのはのびるの？」ではデンプンの構造の違いを、もち米と他の米のゆで汁にヨウ素を含むうがい薬を加え、反応液の色の違いとして観察した。次に「だ液はスゴイ！」では、綿棒にだ液とデンプンを含ませ、カイロで1分温めるとヨウ素デンプン反応をしなくなることを観察し、だ液の働きを楽しく学んでもらった。特に児童の人气が高かった3番目の実験「電気の力で紙に字を書いてみよう」では、ヨウ化カリウム水溶液の電気分解を利用し、デンプン水溶液を浸み込ませた紙に文字や絵を書いてもらった。紙に浮き出る鮮やかな紫色に感

嘆の声が響き、「電気は目に見えないのに字が書けるなんて不思議」と自然現象の不思議と理科実験の楽しさを満喫した様子であった。実施後のアンケートでは「学校で習った理科を使って、たくさんの応用知識が増えてよかった」、「理科はあまり好きじゃなかったけれど、この体験で好きになりました」、「家でも工夫して（実験を）やりたい」等の感想が寄せられ、盛会裏にイベントを終了することができた。今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の児童・生徒の理科教育の一助になればと期待し、継続していきたいと考えている。



地域のボランティアスタッフから支援を受け実験を進める児童

身近な夏の不思議体験に参加してよかったですか？



第9回 自治会執行部主催 七夕企画

今年も6月末から七夕当日にかけて、七夕企画を実施いたしました。愛学館入口に笹を設置して、愛学館を訪れた方々に願い事を書いていただく企画です。期間は短かったのですが、勉強や部活動、私生活のことなどについて書かれた短冊がたくさんあり、多くの方々に参加して頂き、嬉しく思います。

七夕企画実施にあたり協力して頂いた学生課、教育後援会の方々、並びに企画に参加して頂いた皆様、本当にありがとうございました。



～ 6月のオープンキャンパス ～

6月7日（日）にオープンキャンパスを開催しました。

受験生、付添者を合わせて372名（前年比：106.0％）の参加者がありました。躬行館T31講義室を会場とし、「学長挨拶」、「大学紹介」、「在學生の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「学長挨拶」では、乾学長から「輝ける薬学の未来に向けて」というテーマで、本学の目指すファーマシスト・サイエンティストの育成について話をいただきました。「大学紹介」では、安井入試広報委員長から、本学の説明をわかりやすく行われました。

「在學生の話」では、6年次生小嶋愛未さんに研究室、病院・薬局実習、アルバイト等の体験に基づいた大学生活全般の話をしていただきました。「卒業生の話」では、ファルメディコ株式会社 ハザマ薬局に勤務されている北条亜矢子様に本学で学んだことが社会に出てどう活かされているか等について話をしていただきました。「在學生の話」、「卒業生の話」ともにたいへん好評でした。

「施設見学」では、愛学館の分野、図書館、臨床薬学教育研究センターの見学を行いました。また、このオープンキャンパスから在學生の学生広報スタッフが施設見学の誘導や受付等を行い、参加者からは在學生と気軽に話ができたと良好でした。躬行館食堂で実施した「相談会」には、107名の相談者があり、入学試験や学生生活、奨学金や就職などの相談に応じました。

～ 8月のオープンキャンパス ～

8月1日（土）・2日（日）の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

39度を記録した猛暑日にもかかわらず、1,849名（前年比：110.7％）の参加者がありました。薬学6年制開始以降最高の人数となり、躬行館T31・Q31講義室の2会場で「学長挨拶」、「大学紹介」、「在學生の話」を実施し、その後、「体験実習」、「施設見学」、「相談会」を行いました。「在學生の話」は、金丸達哉さん・宇田紗央里さん（8/1）、記虎昇史さん・諸頭温奈さん（8/2）（共に6年次生）の4人に実施してもらい、両日とも好評でした。

参加者からは、大学紹介について「薬学を目指すうえで歴史と理念がよく分かった」、在學生の話については、「学生目線からの研究や大学生活が良くわかった」、体験実習については、「貴重な体験ができて良かった」などの声がたくさんありました。また、施設見学については、「とてもきれいで設備が整っていた」などの声が多く聞かれました。

相談会は、躬行館食堂で実施し、両日合計390名の相談者があり、教育職員、事務職員、在學生が相談に応じました。

関係者の皆様には、ご多忙中ご協力を賜り誠に有難うございました。今後も、学生広報スタッフを前面に出し、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

■ 2015年6月、8月のオープンキャンパス参加人数

	受験生	付添者	合計
6月7日（日）	204名	168名	372名
昨年度	189名	162名	351名

	受験生	付添者	合計	昨年度
8月1日（土）午前	504名	223名	727名	614名
午後	104名	79名	183名	203名
小計	608名	302名	910名	817名
8月2日（日）午前	240名	144名	384名	412名
午後	314名	241名	555名	441名
小計	554名	385名	939名	853名
合計	1,162名	687名	1,849名	1,670名
昨年度	984名	686名	1,670名	



体験実習受付

■ 2015年8月のオープンキャンパス集計結果（受験生・高校生）

Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	インターネット（本学のホームページ）	393	61.4
2	高校の進路指導または資料	134	20.9
3	オープンキャンパスのチラシ・DM	118	18.4
4	家族または親戚	107	16.7
5	先輩・友人・知人	63	9.8
6	予備校	9	1.4
7	受験雑誌など	4	0.6
8	新聞	3	0.5
9	その他	3	0.5

Q2 オープンキャンパスに参加された目的や動機は何ですか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	キャンパス・校舎・食堂など施設・設備の確認	462	72.2
2	実験・研究などの施設・設備の確認	296	46.3
3	入試情報の確認	284	44.4
4	キャンパス周辺の街並みや環境の確認	196	30.6
5	授業内容の確認	168	26.3
6	研究内容の確認	145	22.7
7	大学の教育理念・方針、将来構想の確認	139	21.7
8	薬剤師国家試験対策についての確認	135	21.1
9	就職状況や進路指導の確認	122	19.1
10	薬学6年制の確認	100	15.6
11	クラブ・サークル活動などの確認	78	12.2
12	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	68	10.6
13	病院・保険薬局実務実習の確認	64	10.0
14	在学生の確認やコミュニケーション	49	7.7
15	教育職員及び事務職員の確認や相談	21	3.3
16	学生相談・サポート体制の確認	17	2.7
17	その他	13	2.0



学長挨拶

Q3 本学を受験する場合、どの方式で受験されますか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	B方式（本学独自）	253	39.5
2	検討中	249	38.9
3	推薦入試	215	33.6
4	A方式（センター前期）	157	24.5
5	C方式（センター後期）	27	4.2



大学紹介

Q4 オープンキャンパスに参加されての感想はいかがでしたか？（全体）

No.	回答	件数	(全体)%
1	とても良かった	377	58.9
2	まあ良かった	139	21.7
3	あまり良くなかった	0	0.0
4	全く良くなかった	0	0.0
5	無回答	124	19.4
合計		640	100.0

Q5 オープンキャンパスに参加されて、京都薬科大学の印象や評価は変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	かなり受験意欲が高まった	283	44.2
2	少し受験意欲が高まった	269	42.0
3	変わらなかった	42	6.6
4	少し受験意欲が減退した	1	0.2
5	かなり受験意欲が減退した	0	0.0
6	無回答	45	7.0
合計		640	100.0

※有効回答アンケート数：640

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、2014年4月号(No. 177)から大学院研究活動等を報告しています。ぜひご覧ください。

■5月28日（木）第1回KPU-OHP臨床医薬カンファレンス

京都薬科大学および洛和会音羽病院の両施設が締結した学術包括協定の一環として相互の教育・研究および医療技術等の一層の進展と地域社会の発展に寄与することを目的としたカンファレンスを実施。大学院生が多数参加し、臨床現場である病院と京都薬科大学のコラボレーションについて思いを巡らしました。

■6月3日（水）第10回「とにかく英語を口にしよう」

『Research and Life in the United States』

水野 知行博士、水野 佳奈博士

Division of Clinical Pharmacology

Cincinnati Children's Hospital Medical Center

米国留学について、体験談を交えながら日常生活や文化の違い、また、オハイオ州シンシナティ小児病院での臨床薬理学研究についてのお話がありました。米国留学に魅力を感じた参加者から質問が続いていました。



とにかく英語を口にしよう

■6月15日（月）第11回「とにかく英語を口にしよう」

薬学専攻博士課程2年次生山下修吾さん(薬剤学分野) ポスターセッションを学ぶ：第2回

2年前の発表を、昨年度の大学院英語プレゼンテーションで、Hawke先生のご指導によりブラッシュアップし再挑戦しました。Hawke先生の指導のポイント、特に有効と思ったコメントなど、ポスター発表の実体験と指導を受けた体験の両方から改善しました。

■6月19日（金）課程による博士課程口述発表会開催

学位授与申請者2名の口述発表を行いました。

■6月23日（火）・24日（水）

6年次生卒業論文発表会に、大学院生、外国人留学生が積極的に参加し、活発な英語での質疑応答を行いました。

■7月17日（金）独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

Pharmaceuticals and Medical Devices Agency

一日研修の開催

薬学専攻博士課程4年次生1名が参加しました。



大学院研究倫理教育SGD

■8月7日（金）大学院研究倫理教育SGD開催

昨年に引き続き、研究倫理教育をスモールグループディスカッションにより行いました。詳細はP25～26に掲載。

■8月18日（火）私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会開催

京都薬科大学で現在進行している2つのプロジェクトの合同成果発表会で、薬学専攻博士課程2年次大学院生が発表を行いました。

■8月21日（金）大学院入学選考日（夏季募集）

■8月28日（金）総合薬学セミナー（博士課程、博士後期課程）、

公開セミナー（博士前期課程）研究科合同発表 10:00～ A31講義室

大学院入学選考合格発表（夏季募集）



合同成果発表会

近年、日本では科学研究の信頼性を大きく揺るがすような研究活動の不正行為が発生しています。そのような不正行為を未然に防ぐため、文部科学省は平成26年8月に「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を策定し、大学などの研究機関での研究倫理教育を確実に実施することを求めています。こうした背景から、本学においても昨年に続き、2015年8月7日（金）に、大学院生を対象として、研究倫理に関するSGD（スモールグループディスカッション）を開催しました。

今年は、米国保健福祉省 研究公正局作成の研究倫理映像教材「THE LAB」を元に科学技術振興機構（JST）が作成した日本語版のビデオを参考にした教材を用いて行いました。すなわち、ある大学の研究室で起こった論文投稿の不正問題に対する対応策について4人の登場人物がおり、これら登場人物それぞれの立場で、この研究不正問題に対してどのように対応するかというケーススタディで問題を提起し、それに対して回答し、議論するという方法を用いて行いました。

当日は留学生を含めた23名の大学院生、教員が参加し、6つのグループに分かれて活発な議論をした後、模造紙に各グループの意見をまとめて、最後にグループごとに発表するという形式で行いました。なお、留学生が所属する2つのグループは、英語版の資料を用いて行いました。各大学院生とも予想以上に大変熱心に取り組んでくれ、また最後の発表でも色々な意見交換が出来て、大変実りあるSGDになったのではないかと思います。なお、当日までに教材などを色々と御準備頂いたワーキンググループの先生方にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

今後は本倫理教育を大学院生以外にも対象を拡げていくことが課題になりますが、こうした取組みにより、当大学での研究倫理教育の充実が図られ、研究不正防止の一助となることを期待したいと思います。

■ 大学院研究倫理教育SGDに参加して

薬科学専攻博士前期課程1年次 田中 晶子

研究倫理に関するSGDに参加し、改めて研究倫理について考える良い機会となった。

ドイツで起きた論文17編がねつ造とされたベル研究所の事件は有名な話だが、近年は日本においても諸々の事件が起きており、研究倫理は身近な問題となっている。一方で、研究倫理というものを取ってこれまで真摯に考えてこなかったのも事実である。なぜなら、研究倫理を守るといことは日常生活でいう「約束を守る」「嘘をつかない」などといった、ある意味当然のことだからである。しかし、本SGDを通じて、研究倫理を守ることの難しさを知り、その重要性を再認識した。

本SGDは、研究を進める上で直面する可能性のある事案をシュミレーションすることで研究倫理に対する考えを深める内容であった。まず、3～4人の大学院生を1グループとし、それぞれに役が与えられた。自分の役に対して、次にどういう行動を起こすかを選択肢の中から選ぶことを繰り返し、最後に自分の役の運命

が決まる。オムニバス形式になっており、グループ全員のストーリーを聞くことで全体のストーリーを把握できるようになっていた。その後、グループ内で、さらには全体でディスカッションを行った。まず驚いたことは、ストーリーのリアルさである。本当にいつ起きてもおかしくないような設定で取り組みやすく、話の設定に惹かれ興味深く学ばせていただいた。そして、根本の倫理は同じはずではあるが、人によって選択が異なり、また同じ選択をしていても選択した理由や解釈が様々で正解がないことに驚くとともに自分の倫理に関する視野が広がった。

研究倫理を守るといことは、これから研究活動をしていく上で基本であり、自分自身を守ってくれるものでもある。本SGDでは、大学院生同士で活発な意見交換もでき、先生方からも意見等を頂戴し、とても有意義な時間を過ごすことができた。本SGDで学んだことを今後の研究活動に活かしていきたいと考えている。

■ KPU and the research ethics education

Course of Pharmaceutical Sciences Doctoral Program Tamam Alama

Fame, high position and wealth are considered as the triple dream for everyone on the planet. Fulfilling that dream, however, requires a lot of effort and hard working and costs much of time and money. Unfortunately, some people prefer taking shortcuts by following illegal methods such as deception. The worst kind of cheating is genuinely to cheat in a research. Falsifying the data, especially medical data, dose harm the people who put their trust on researchers in a

way or another. The latest incident of falsifying data spotted the light on researchers, and a question was raised: "How far should we put our trust in researchers?". Thankfully, Japanese government quickly moved to re-evaluate the research ethical issues and to apply it in the proper way. Now, every researcher at every Japanese university must go through a series of research ethical educations and discussions. Unsurprisingly, Kyoto Pharmaceutical University

(KPU) has responded quickly and started to organize a yearly small group discussion (SGD) about research ethics. In August of this year, KPU convened a SGD involved all graduate students under a close monitoring from KPU staff. Truly speaking, SGD of KPU was fabulous. For a start, the teachers handed us an ethical problem, then we were asked to think about this problem to build our own opinions. After that, we discussed our different solutions inside a four persons group. Indeed, it took roughly two hours to finalize our ideas on a white board. Then we had to speak our opin-

ion loud in front of other researchers and teachers. Thereafter, we were asked to explain why we chose those particular solutions. At the end we received kind advice and some corrections from the teachers. Besides, what really draws attention is the respectful treatment and the cheerful atmosphere which prevailed at the meeting place. Henceforth, the SGD of KPU will also involve undergraduate students and the staff of KPU. At the end, one has to remember that ethics are before science, and what comes fast -by cheating- goes also fast.



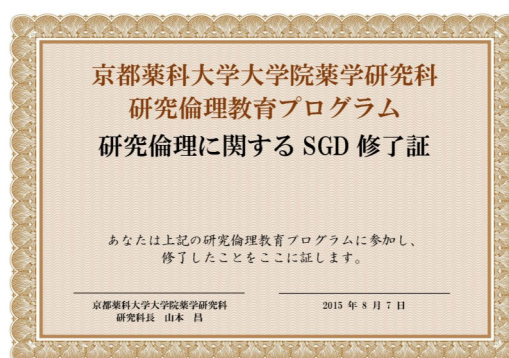
プロダクト作成の様子



ディスカッションの様子



発表の様子



京都薬科大学

修了証

Library News

図書

開館日程

2015年 10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2015年 11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2015年 12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8:30-21:00

8:30-17:00

10:00-17:00

休館

休館-館内整備

「日本薬学生連盟 年会」を本学で開催！

Event

2014年度日本薬学生連盟年会部会 副部会長 まお ういれい 茅 薇蕾
副部会長 望月 彩音
(京都薬科大学 4年次生)
※学年は2015年3月時点

一般社団法人日本薬学生連盟の年会を3月14日（土）、15日（日）の2日間にわたり、京都薬科大学にて開催しました。

■年会とは

私たち一般社団法人日本薬学生連盟は、年会「薬学生の集い」というイベントを年に一度開催しております。このイベントは日本薬学生連盟に所属している北海道から九州に至るまでの全国の会員が一堂に会して、同じ薬学を学ぶ仲間が各地で一年間活動してきたことを共有しあい、切磋琢磨する場となっています。また、全国各地から学生が集まるので交友の輪や視野を広げるだけでなく、以前のイベントで知り合った旧友と再会を果たす貴重な時間ともなっています。

今年度は第16回目の開催にあたり、かつ例年の関東開催とは異なる初の関西の地でもあったため、今まで年会にあまりなじみのなかった関西の学生にも参加してもらいやすいイベントとなりました。

開催日の2日間を通して、おおよそ250名の参加があり、講演やワークショップ、ポスターセッションを通じて、様々な考えや価値観を知り、仲間と共に考えることで様々な学びと感動を得ることができました。

■テーマ「未来への薬束」

今回の年会では「未来への薬束」をテーマとし、参加者自身の自分の未来への約束を考えるきっかけにしてもらいたいという思いがありました。

この年会を通じて、自分は薬学生として今何ができるのか、将来薬剤師としてどんな領域で何をしたいのかなど、自分のビジョンを描くうえでも参考となるような目標や気づきを見つけ、これからの学生生活や活動に生かしてもらいたいと思っています。特に今年は、参加者の皆さんと一緒になにか形になるものを築き上げていきたいというアイデアのもと、「あなたの未来への薬束は？」と題して、大きな模造紙に描いた桜の幹と桜の形をした付箋を用意し、参加者に未来への薬束を書いて貼ってもらいました。桜がだんだんと花咲いて、五分咲き、七分咲きになり、2日目のクロージングの時点では、大きな桜の木が満開となりました。これだけ多くの未来への約束が集まった満開の桜の木を目の当たりにして、とても感慨深いものがありました。

■基調講演

開会式直後に、T31講義室で京都薬科大学の学長である乾賢一先生のご講演を賜りました。テーマは「輝ける薬学・薬剤師の未来に向けて～薬学生への期待～」。

現在までの薬学の歴史をふまえながら、これからの薬剤師のあり方や未来の薬剤師のために京都薬科大学が取り組んでいることをお話しいただきました。参加者の多くが、自身の将来について現在や将来の薬剤師像をふまえて真剣に考える良い機会となったことと思います。

■ワークショップ

今回の年会では、日本薬学生連盟の委員会、加盟団体、OB・OG、個人会員、外部団体、企業の方々によるワークショップが計16個行われました。どのワークショップも出展者の皆さまが時間をかけてじっくりと練り上げた企画であり、参加者の皆様からの評判も良く有意義な時間となりました。

ワークショップのテーマとして、PCE (patient counseling event : 服薬指導) や、スポーツファーマシストなど、薬学に関連したものはもちろん、これからの将来に役立つプレゼンテーションの方法や、ビジネスモデルに関するもの、ビッグデータの利用方法、アンガーマネジメントなど幅広い分野が取り上げられました。多くの薬学生にとって普段馴染みのない分野だけに、とても興味深く、参加者みなさまひとりひとりの視野も広がり、未来への一歩の糧となったことでしょう。

■ワークショップ担当

新里拓也（神戸学院大3年）、梅崎優志（立命館大4年）、浅川裕香子（OG）、齋藤良行（OB）、P-CUBE（神戸学院大）、やくけんR（立命館大）、PARC（大阪薬科大）、九州支部、公衆衛生委員会、国際交流委員会、薬学教育委員会、学術委員会、ノンテクユニバーシティ、PWS、全職種臨床推論WS、エムスリーキャリア株式会社

■ポスターセッション

今年のポスターセッションでは「活動報告部門」と「学術部門」の2つの部門に分けて、加盟団体と委員会のそれぞれ一年間の成果をポスターで発表しまし

た。「活動報告部門」では、普段の活動の紹介やその活動で得たことをまとめて紹介することで、自分たちの活動を広め、他の団体の活動を知り、団体同士の活動の活発化も期待できます。「学術部門」では、団体それぞれの調査や研究による結果をポスターで発表しました。ポスターセッションの時間には、会場となった廊下が大勢の参加でいっぱいになり、発表者と参加者からのディスカッションで会場がわきました。2部門における参加者からの投票で優秀ポスターを選出し、クロージングでの表彰を行いました。優秀賞に選ばれた団体の皆様おめでとうございます。惜しくも優秀賞を逃した団体の皆様は、来年度の年会でリベンジをお待ちしております。

《優秀賞》

・活動報告部門

薬×Yahoo Yaqoo / Yaqoo (東邦大学)

・学術部門

東南アジアにおける薬学教育と医療水準の進展に向けて / 日本薬学生連盟学術委員会

■懇親会 ～仲間との再会と新たな出会い～

懇親会は、14・15日の両日の夜に開催しました。年に一度、全国の薬学生が集うこの年会では、普段直接会うことの少ない友人や先輩、後輩との久しぶりの再会を喜ぶ姿が見られました。お互いに思い出を語り合って笑いあい、この1年間に自分のやってきたこと

や次の目標を語り合う熱い場面が多く見受けられました。また、この年会で初めて出会った多くの仲間とのつながりを通じてこれからの未来について語り合う様子は、日本薬学生連盟の「未来への薬束」に大きな光を予見させるものでした。

■年会を終えて

今年の年会を開催するに当たり、昨年10月から関西の薬学生を中心に年会部会を立ち上げ、年会部会スタッフおよび日本薬学生連盟の本部メンバーが一丸となって準備を進めてきました。初の関西での開催ということで、当初は参加者が集まるのかなどの不安もありましたが、2日間で約250名もの方に参加していただき、実に活気あふれた年会となりました。遠方から来ていただいた参加者の方々に「年会に参加するために京都まで来た甲斐がありました」というお言葉をかけていただいたときの喜びは、とても大きいものでありました。このイベントを無事開催することができたのは、時間をかけて各企画を練り上げてくださった企画者の皆さん、日本薬学連盟全体の運営を行ってくれた本部メンバー、年会部会スタッフ、そして何より当日全国から来てくださった参加者の皆さんのおかげです。

この第16回年会薬学生の集いに様々な形で関わった、全ての皆さんに心から感謝の言葉を述べたいと思います。ありがとうございました。

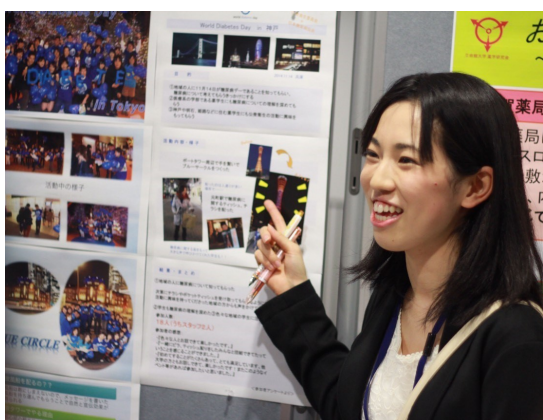
最後に…あなたの「未来への薬束」が果たされますように。



年会全体集合写真



乾先生による基調講演



ポスターセッションの様子



ワークショップの様子

管弦楽部

こんにちは管弦楽部です。

私達は毎年行われる定期演奏会に向けて日々練習に励んでいます。

4月の新歓での楽器体験または新歓コンサートには多くの新入生が来てくれました。2、3年次生を中心に新歓活動を頑張った甲斐もあり10人の新入生がこの部活に入部してくれました。

新入生を迎えての前期の個人練習、合奏の練習を重ねて見えてきた課題もたくさんあったので夏休み中の練習、夏季合宿、そして後期の練習でさらにスキルアップし、11月に行われる定期演奏会が最高の舞台になるよう部員一同精一杯頑張りますのでこれからも管弦楽部の活動に注目頂ければ幸いです。

ソフトテニス部

活動実績

関西医歯薬ソフトテニス大会

男子団体 2回戦敗退

女子団体 1回戦敗退

個人戦 雨天により中止

四葉戦

男子団体 2位

女子団体 3位

今後の予定

8月 関西薬学生ソフトテニス大会

11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

4月 関西医歯薬ソフトテニス大会

5月 四葉戦

剣道部

剣道部は月曜日、水曜日、金曜日の17時から19時まで活動しています。部員は全員で24人で、大半が大学から剣道を始めた初心者で占めています。

最近の試合結果です。

・京滋学生剣道大会

二段以下の男子個人戦で準優勝

女子個人戦でベスト8

・医歯薬学生剣道大会

男子個人戦でベスト8

女子個人戦でベスト16

8月には関西薬学生剣道大会、全国薬学生剣道大会があるので、結果を残せるよう頑張ります。

植物研究部

植物研究部は植物を育て、学び、癒されながら不定期にのんびりと主に補助園で先生にアドバイスをもらいながら活動しています。

昨年は京都府立植物園見学、育てたバジルを活用したり、文化祭では染物、寄せ植えの展示、果実酢の試飲を行いました。

今年はバジル、ラベンダーを部で管理し、補助園からハーブを分けてもらいポプリづくりに挑戦しています。文化祭ではオリジナルポプリづくり、育てたバジルを利用したフレーバーウォーターの試飲を行う予定です。

活動に興味のある方はぜひ部室に来てください。

サイクリング部

こんにちは、サイクリング部です。僕たちの部活では、平日は昼休みの間のみ昼練を行い、山科の毘沙門まで走って、日々練習に励んでいます。放課後は基本的に部活動は行わないので部活と勉強を両立できるよい部活です。週末には山岳ラン、長距離ラン、一泊ランや夏休みには北海道ランで合宿を行うなど、充実したサークル活動を行っています。北海道ランでは、自転車で各地を回って、観光したり、美味しいものを食べたりして満喫しています。OBさんの支援のおかげもあり、今年は例年に比べて部員も増えより一層賑やかになりました。部費は必要なく、和気藹々と活動しています。

News お知らせ

京都薬科大学 京薬論集刊行会主催 第13回「文化講演会」のお知らせ

日 時：11月1日(日) 14:00～16:00

会 場：京都薬科大学 本校地 躬行館3階Q32講義室

講演者：野崎 亜紀子氏

(京都薬科大学

基礎科学系一般教育分野 教授)

演 題：「尊厳死法のゆくえ」

講演者：クリストフ・リュトゲ氏

(ミュンヘン工科大学 教授／

京都薬科大学 客員教授)

演 題：「グローバル社会と倫理-経済利益の

追求活動と倫理との調和の道筋-」

*英語による講演ですが、日本語への通訳もあります。

聴講無料です。当日は「京薬祭」も開催中ですので、あわせてお楽しみください。

第21回 京都薬科大学 公開講座 概要

2015年10月24日（土）に公開講座を開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

■ 前半：講演／躬行館3階 T31講義室

＊午後1時～午後1時40分：「健康と病気を哲学する」坂本 尚志（京都薬科大学 准教授）

＊午後1時45分～午後2時25分：「オーダーメイド医療」大矢 進（京都薬科大学 教授）

■ 後半：薬用植物園御陵園にて薬草の見学・効能説明など

＊集合：午後2時45分／躬行館3階 T31講義室

＊見学：午後4時30分まで

※詳しくはホームページ（<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>）をご確認ください。

2015年度 実務支援セミナー 概要

（申込受付期間、プログラム内容等は変更される場合があります）

■ 日 時：2016年2月28日（日）12：00～16：00（受付開始：11：00～）120分×2コマ

（注：受付は、当日開始10分前までにおすませください）

■ 場 所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 2階 R23演習室

■ テーマ：演習「注射薬の無菌混合調製」

■ 講 師：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 高山 明 先生

■ 概 要：注射薬の無菌混合調製業務導入計画がある施設薬剤師に対し、無菌混合調製にかかる基本的概念と手技を習得する。

<内容例>

- ・導入講義（注射薬の無菌混合調製に必要な基本的知識）
- ・実技（アンプルからの薬液採取、バイアル製剤における陰圧操作）
- ・講義（レジメン管理）
- ・実技（衛生的手洗い、クリーンベンチの清拭、注射薬の混合調製）

■ 認定単位：1日／計2単位 G01（共催：公益財団法人 日本薬剤師研修センター）

■ 定 員：20名

■ 受講料：5,000円（テキスト代含む）

■ その他：お支払いされました受講料は、欠席またはキャンセルされた場合でも、返金できませんのでご了承ください。欠席された方には、後日テキストを送付いたします。

■ 申込方法等

2015年11月8日（日）～12月6日（日）までの申込受付期間で、①または②の方法でお申込み下さい。

①右記URLアドレス「WEB申込フォーム」より申込み：<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

②電話にてお申込み：TEL 075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ10：00～16：00）

※注1：申込数が定員数を超えた場合は、抽選になりますのでご了承ください。

※注2：申込数が定員数を大幅に超える場合は、上記期間までに締切場合があります。

■ 問合せ先

京都薬科大学 生涯教育センター

・TEL：075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ10：00～16：00）

・FAX：075-595-4683（24時間受付）

・E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

受賞

Report

■ 第26回日本微量元素学会学術集会において若手優秀発表賞を受賞

7月4日(土)、5日(日)に北海道大学で開催された「第26回日本微量元素学会学術集会」において代謝分析学分野の6年次生 松山有希さんが若手優秀発表賞を受賞しました。

演 題：高脂溶性亜鉛錯体の投与による分子シャペロン HSP70の発現促進効果

演 者：松山 有希、吉川 豊¹、安井 裕之
(¹神戸女子大学・健康福祉学部)



■ 日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞を受賞

薬物治療学分野の天ヶ瀬紀久子講師が平成26年度日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞を受賞しました。

本受賞は、薬物治療学分野で進めている、薬剤(抗がん剤、非ステロイド系抗炎症薬、ビスフォスフォネート系薬剤等)による消化管傷害の予防・治療法の提案に関する研究領域における研究実績、ならびに薬理系薬学部会に対する貢献から評価されたものです。

2015年8月28日に授賞式ならびに受賞講演が開催されました。

演 題：薬剤誘起消化管粘膜傷害の病態解析と予防・治療薬に関する探索研究

演 者：天ヶ瀬 紀久子



News 京薬会だより

＜平成27年度京薬会支部総会の開催状況＞

愛媛支部(6/21)、北海道支部(6/28)、高知支部(9/5)、岐阜支部(9/20)、三重支部(9/27)がすでに開催され、今後はみちのく支部(仙台市にて10/25)、京都支部(11/1)、岡山支部(11/7)、香川支部(11/15)、東京支部(12/6)、愛知支部(12/6)の各支部総会開催が予定されています。京薬会より会長、副会長をはじめとする幹事、また大学より理事長、学長にもご参加いただき、各地で大学と地域の交流を深めております。

＜京薬祭とホームカミングデー＞

今年度も京薬祭に合わせて11月1日(日)に、今年で第6回となる京薬会主催の「ホームカミングデー」を開催します。本年は日程がオープンキャンパスと重なるため、開始時間を少し遅らせ、午後1時より受付、午後2時より開始とさせていただきます。

ホームカミングデーは年々参加者が増え、昨年も多く卒業生の皆さんのご参加をいただきました。

本年は乾学長による大学の近況の紹介に加え、本学、臨床薬学教育研究センター教授高山 明先生に「薬剤師を取り巻く諸問題と薬剤師への期待」と題して講演いただきます。ぜひお誘いあわせの上、大学へ里帰りいただき新校舎を散策し、懐かしい先生や同窓生とご歓談ください。

また、当日は京薬祭期間中ですので、現役学生との交流など楽しいホームカミングデーにしたいと考えています。そのために先着100名の卒業生の方に学園祭模擬店で使用できる1,000円分のチケットを差し上げますので多数の皆様のご来場・ご参加を期待しております。

詳しくは京薬会誌8月号、ならびに京薬会ホームページをご覧ください。

採用

事務局学生課

清水 芳美
(2015. 9. 1付)

事務局教務課

主 査 加納 良章
(前 事務局学生課)
(以上 2015. 9. 1付)

昇任

事務局会計課

会計課長 近藤 伸子
(前 事務局庶務課)
(2015. 9. 1付)

退職

創薬科学系生薬学分野

助 教 伊藤 謙
(2015. 7. 31付)

配置換

事務局庶務課

係 長 佐原 和美
(前 事務局教務課)

事務局会計課

会計課長 佐々江敏幸
(2015. 6. 30付)

事務局学生課

契約事務職員 清水 芳美
(2015. 8. 31付)

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

Report

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2015年6月～2015年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

中道 律子(昭31) 川原子保子(昭37) 進藤 広彦(昭53) 松本 名美(平06)
玉井 高代(昭35) 坂井 良次(昭47) 抱 隆史(昭61) 京薬会

＜京薬四一会卒業50周年記念募金（昭和41年卒業生）（五十音順）＞

岩田 民喜	北川徳治郎	島地志一郎	廣中 文江	山口 篤子
岩田 光子	小西 祥二	曾我 玲子	福原 祥子	山下 繁克
大谷 善二	小山 和子	辻本 清	藤本 恒子	山下三千子
大見 博志	小山 泰正	七海 朗	堀内 晴美	山本 淑子
織田 文明	斉藤太敬夫	七海 禮子	森 新	
片岡 彭	佐々木基雄	西村 英雄	森 道子	
甲 重雄	芝山哲二郎	原 淑郎	森田 和子	

＜企業・団体・一般＞

キノンビクス株式会社

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

後藤 直正(副学長) 佐々江敏幸(課 長) 佐原 和美(係 長) 高野 江里(課 長) 富永 重夫(職 員)

(2015年8月31日現在)

■ お詫びと訂正 ■

「KPUNews No. 182」におきまして、下記のとおり誤りがありました。お詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。

P. 32「京都薬科大学奨学寄附金芳名録」において、期間に誤りがありました。

正：2015年3月～2015年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

誤：2014年3月～2015年5月にご寄附をお寄せいただいた方々



KPUNews No. 183

2015年10月発行／編集：KPUNews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。